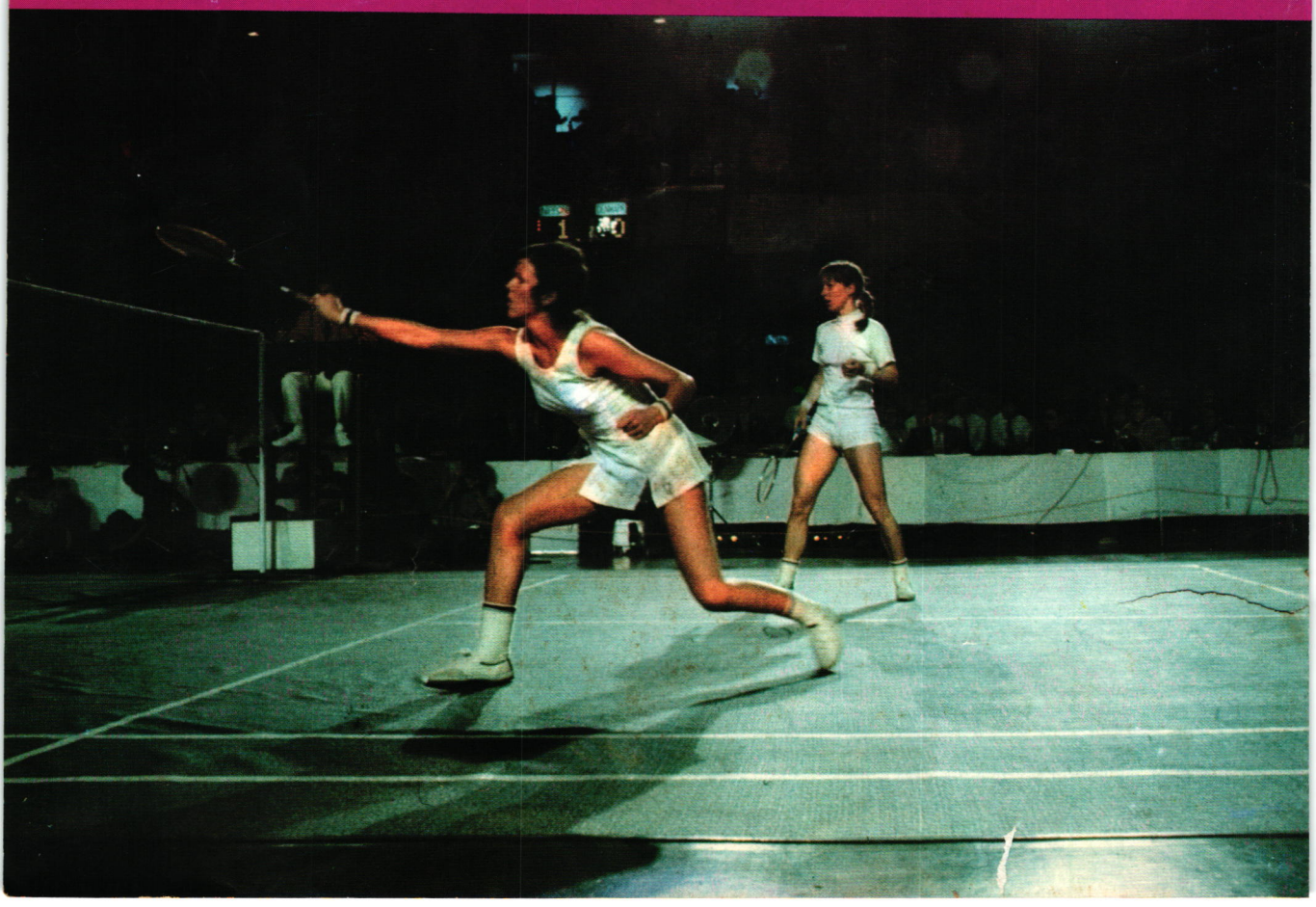
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和47年10月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

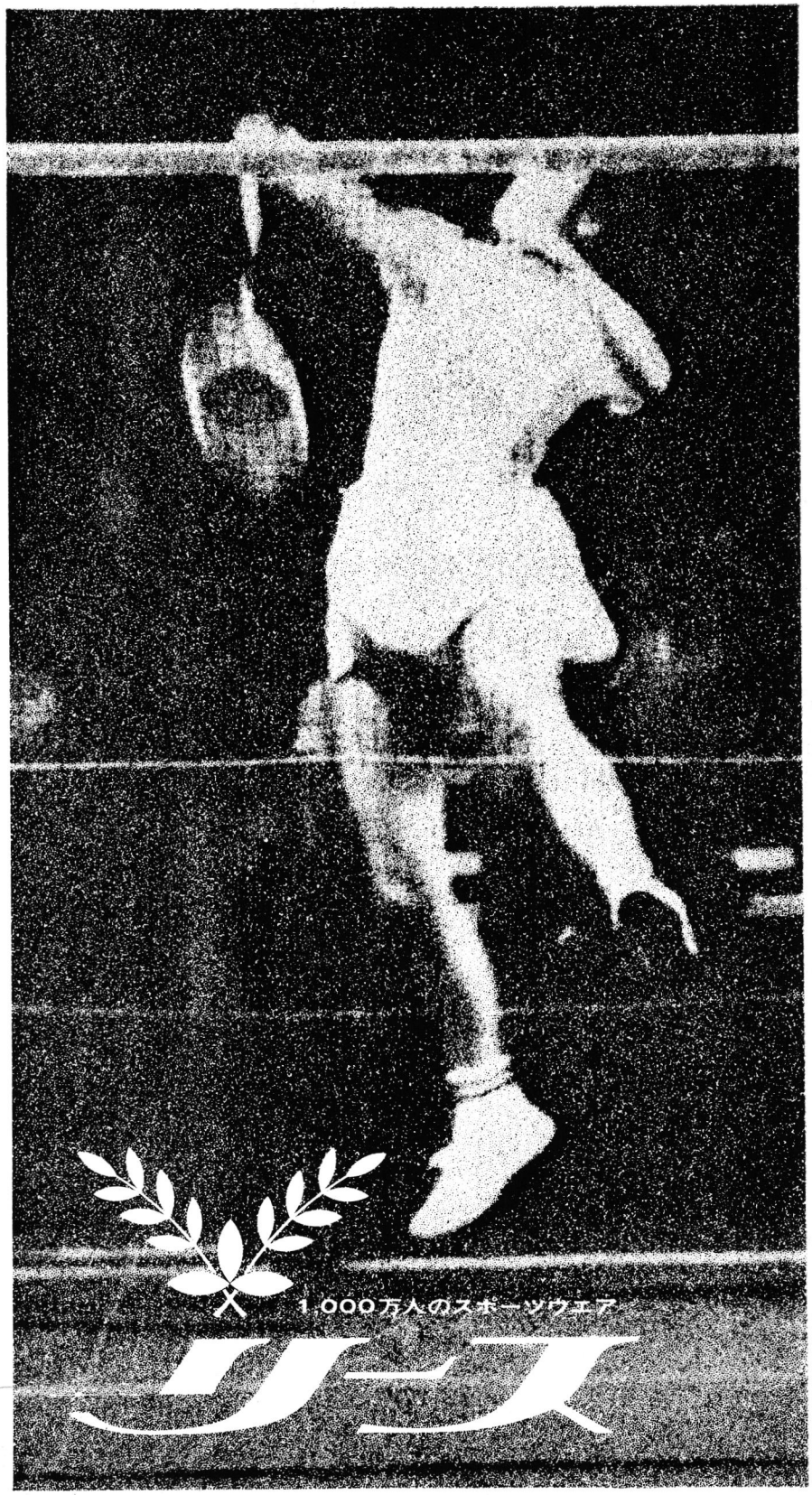
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

37 OCTOBER 1972



この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

1,000万人のスポーツウエア

リース

K TOKYO

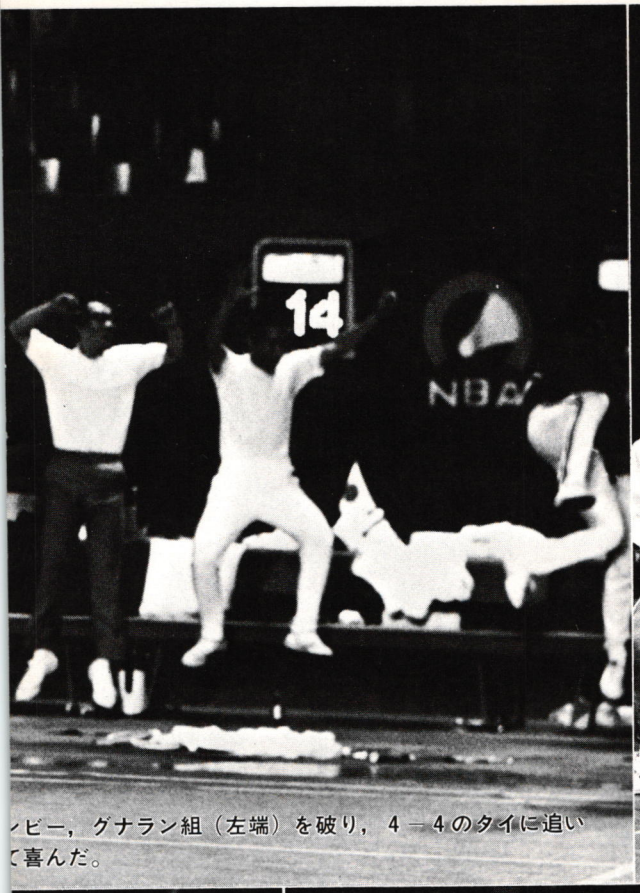
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-1884・0453



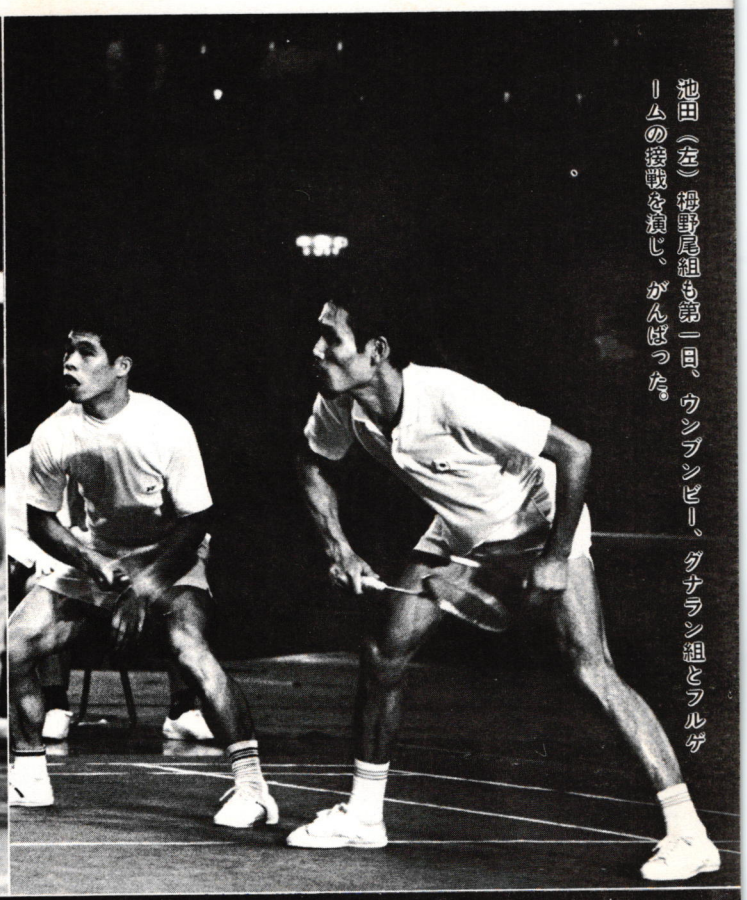
激闘九合、日本ついに力つく

―トマス杯アジア東地区決勝熱戦譜―

4へ，同点に追い上げた“大和魂”



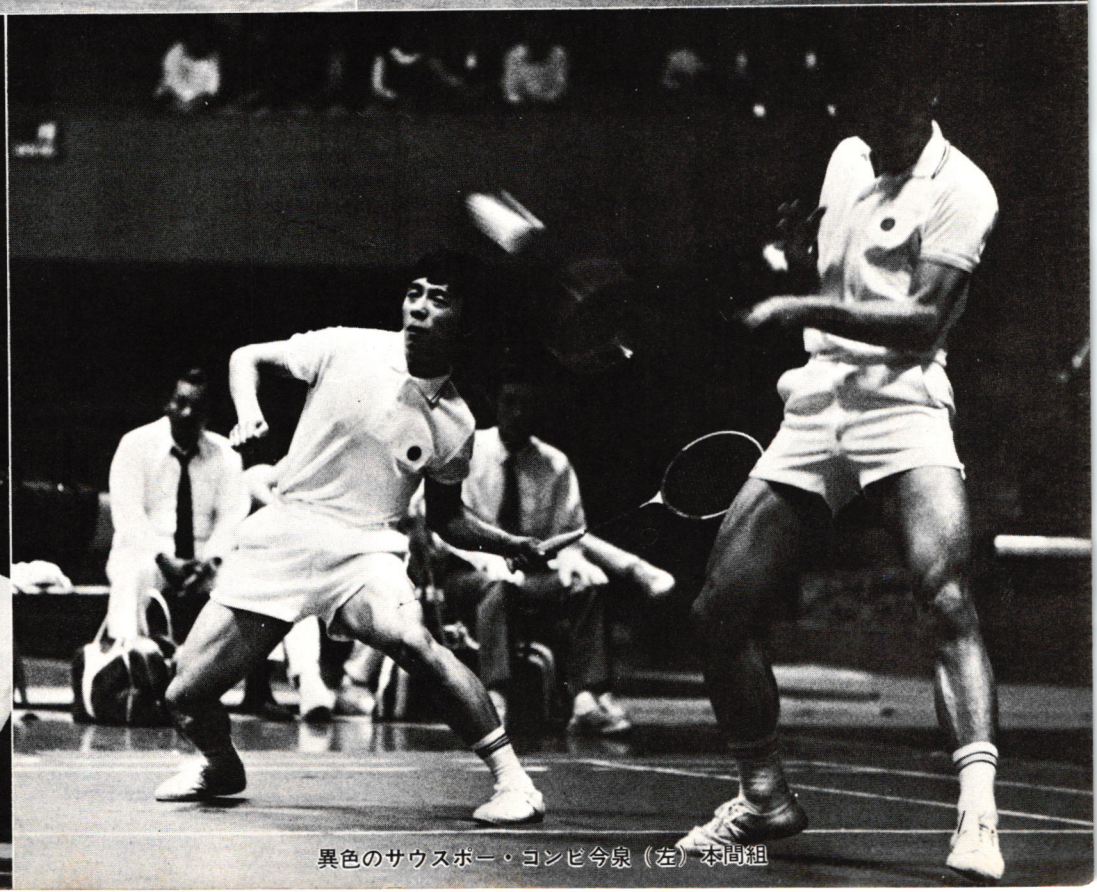
ンビー，グナラン組（左端）を破り，4－4のタイに追い
て喜んだ。



池田（左）榊野尾組も第一日、ウンブンビー、グナラン組とフルゲームの接戦を演じ、がんばった。

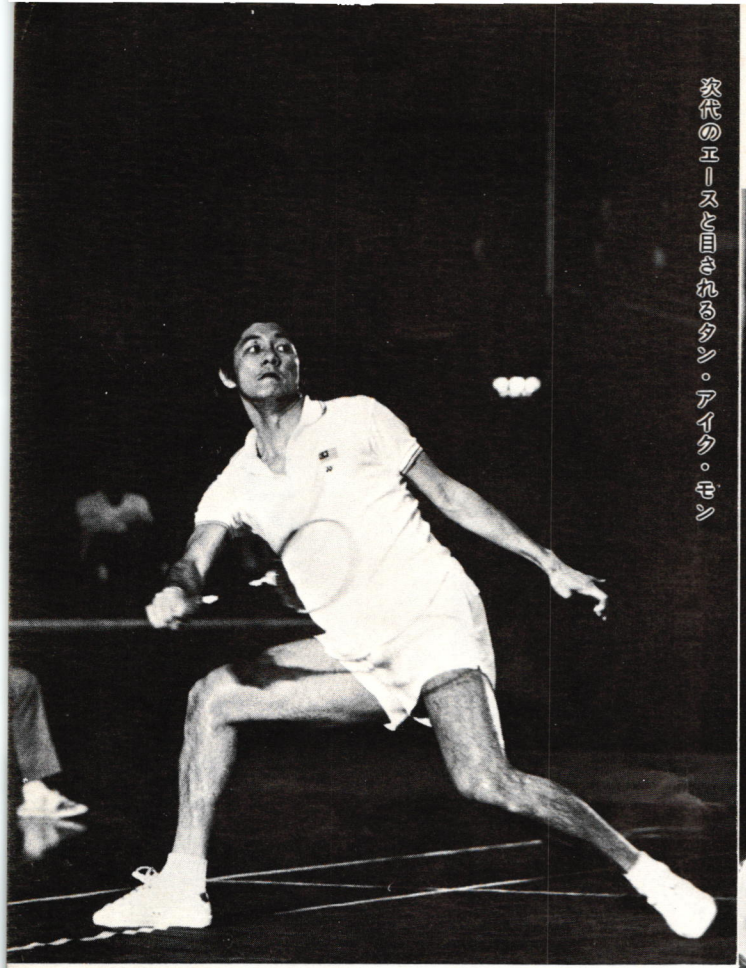


追い上げムードに板垣監督（左）宮永コーチの顔もほころぶ



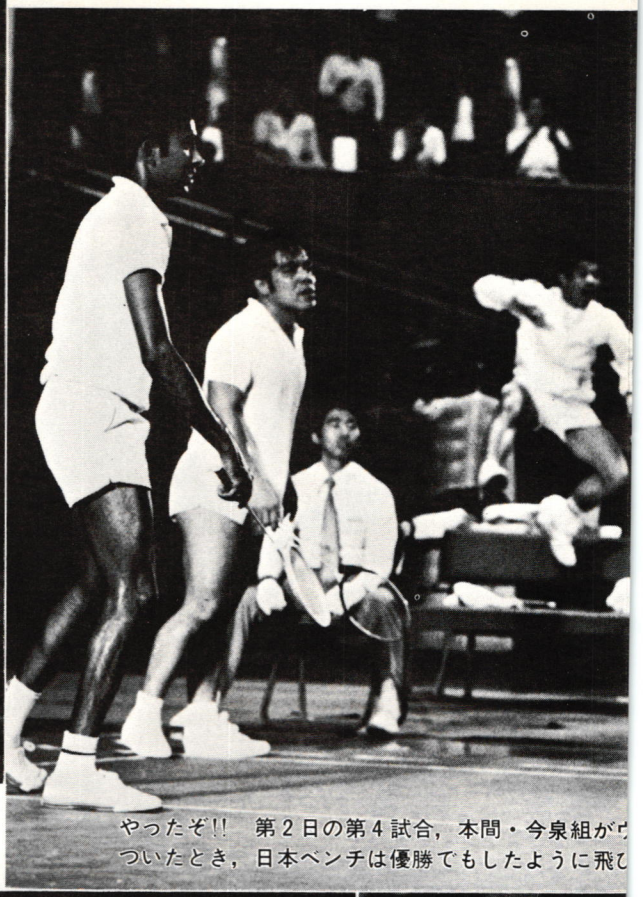
異色のサウスポー・コンビ今泉（左）本間組

1－3から4－

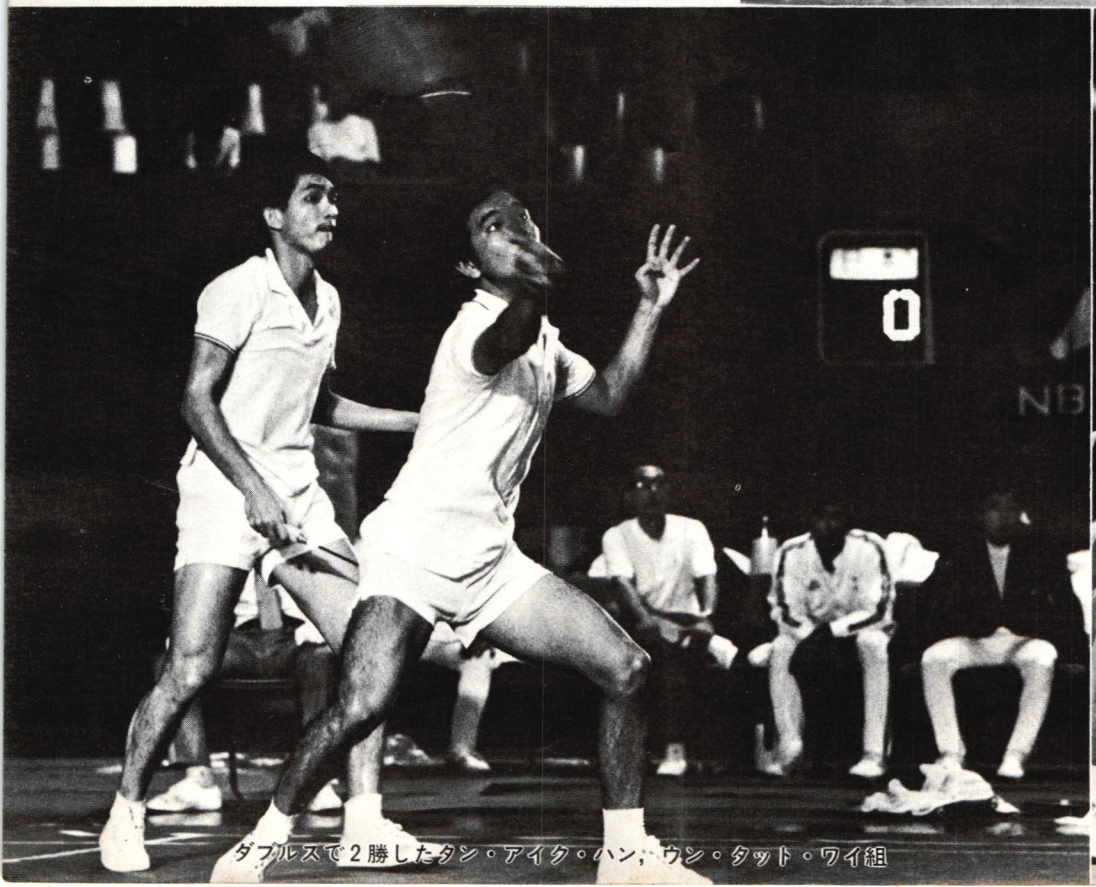


次代のエースと目されるタン・アイク・モン

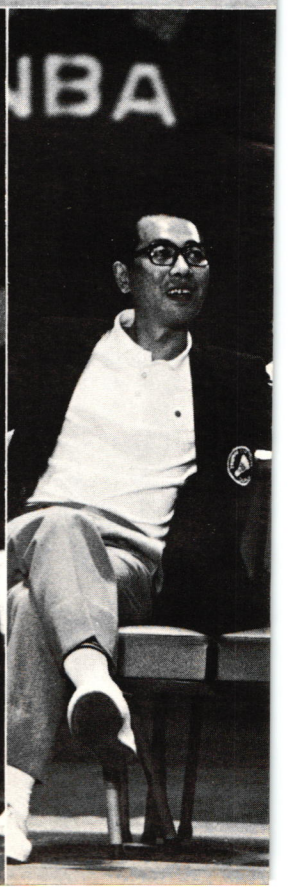
180センチを越す長身のタン・アイク・モン（ハンの弟）は角度とリーチで初日の第2試合で小島をくだした。兄のハン（下の左）は複で2日間にわたり若いパートナーを助けた。



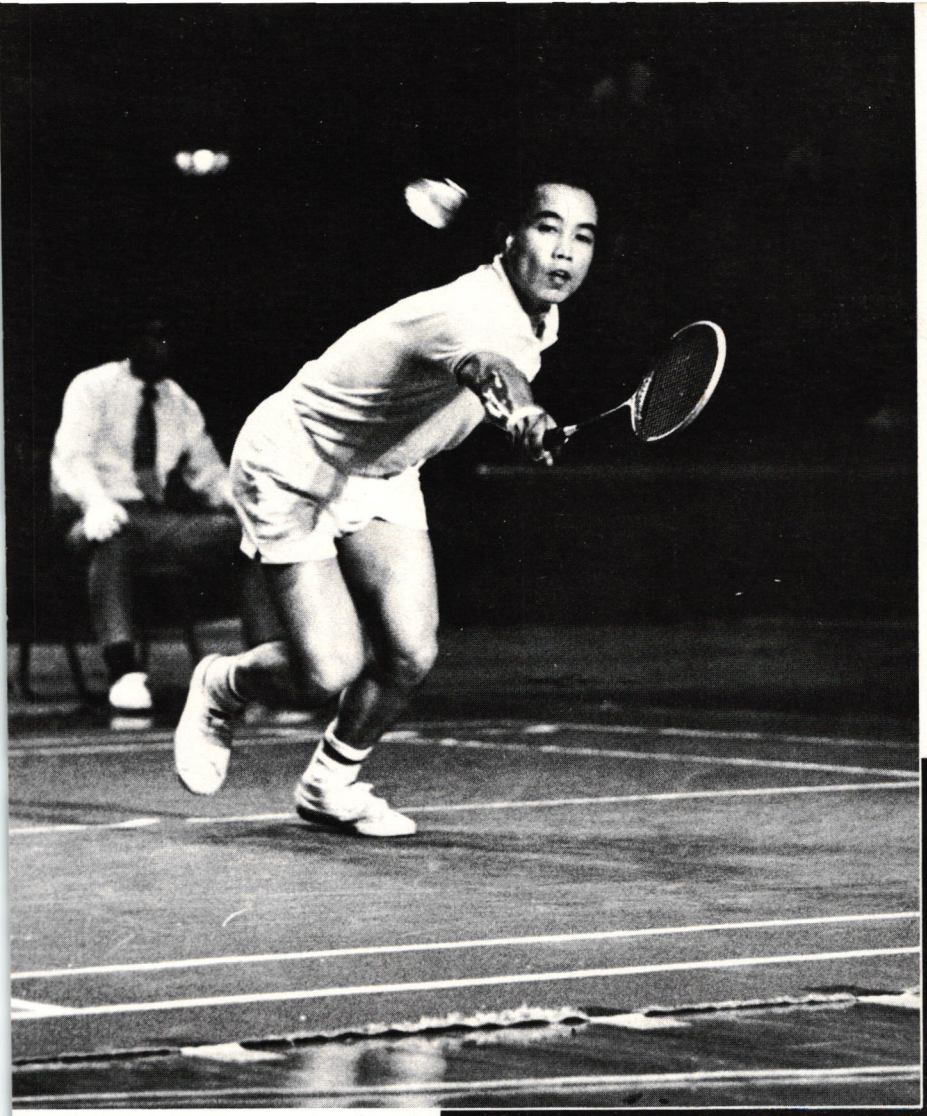
やったぞ!!　第2日の第4試合，本間・今泉組がウついたとき，日本ベンチは優勝でもしたように飛び

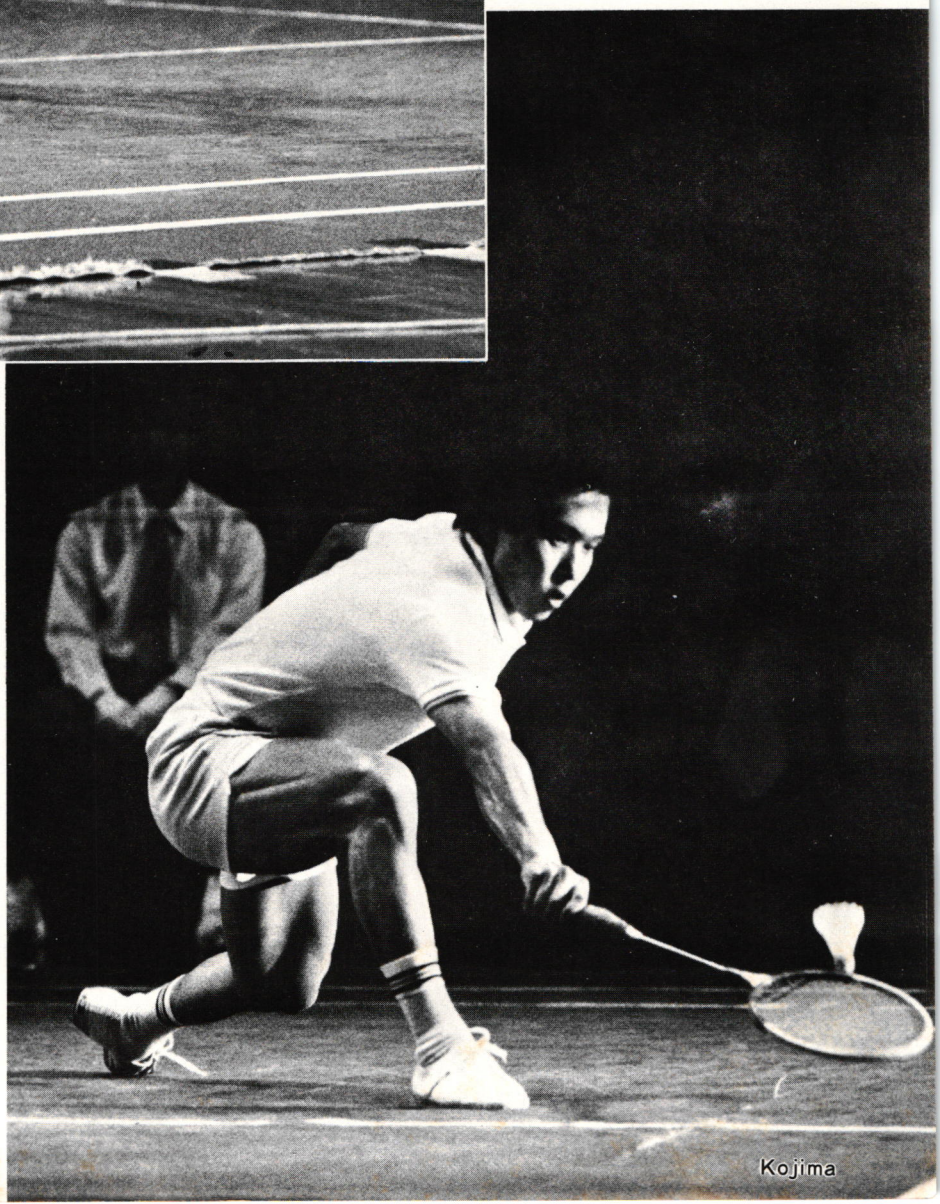


ダブルスで2勝したタン・アイク・ハン，ウン・タット・ワイ組



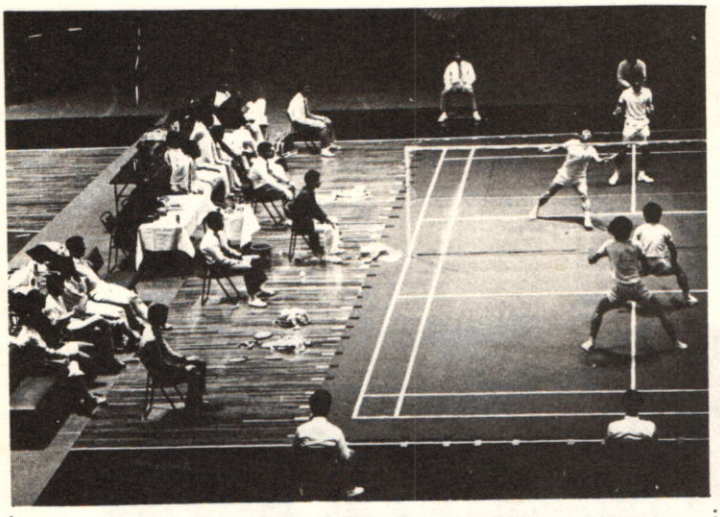
"小さなエース" 面目発揮





第一日で早くも1－3と大ピンチ。この時点で関係者もファンも「もはやこれまで」と肩を落としてしまったはず。この予想外れとなったカードの希望を最終試合までつなげ「もしかしたら逆転優勝も」とまで、思わせた日本チーム。結局、期待はむなしく敗れ去ったが、4－4と同点にする原動力となったのは、二人の小さなエース秋山（上）、小島（右）両ベテランの活躍だった。二人とも第一日にシングルスを落とした。身長差、リーチの差――考えてみれば、身体条件的には、二人が不利なのは当然だった。しかし、経験豊かな両ベテランは、二日目、その〝ハンデ〟をハネ返し、宿敵に借りを返した。

今月号のダイジェスト



トマス杯の熱戦　苦境から希望へ。二日間にわたる大会で，日本は必死にたたかったが，4－4と追いついた（写真のダブルス）のもツカの間，ついに及ばず涙をのんだ。

★日本、ト杯に敗れる　トマス杯のアジア・ゾーン東地区決勝、マレーシア×日本の試合は10月7日、8日の両日、東京・代々木第二体育館で行なわれ、マレーシアは5－4で勝ってゾーン決勝へ進んだ。

この対戦は事実上、ト杯保持国インドネシアへの〝挑戦者決定戦〟だったが、日本は第一日予想外に悪かったのが、最後までたたった。世界の王座を、という日本年来の夢は、一旦、これで消えたわけだが、ここでくじけることなく、再起を期待したいもの。なお、この大会最終日、二つのトラブルがあり、スタンドを興奮させた。

★オリンピックで中山夫人、初の女王に　終盤ごろ、ゲリラの選手村襲撃事件が起こって、世界中の人々にショックを与えたミュンヘン五輪。この〝席〟を借りて、史上初めてのバドミントン競技デモンストレーションが開かれた。

日本からも中山、湯木の世界チャンピオン・コンビ、男子のナンバーワン小島の三選手と、川端監督（団長）が参加。中山が女子シングルスで優勝、記念すべき〝女王〟となった。戦績、全参加選手の紹介、大会の収穫は…などを合わせて収録した。

なお、この折りの写真は都合により次号へ回し、今号のグラフはト杯とインタハイの熱戦の二本立てとした。乞う了承。

★もと国体選手の教員が横領、詐欺でつかまる　まったく残念なことで、家族などの心痛も察するに余りあるが、宮城県で協会役員でもあった高校教員が表題のようなことで司直の手にかかった。これまでは役員としても活動熱心で人柄もよく、信頼されていた先生だったという。どうして、こんなことになってしまったのか。

そのほか「北から南から」では前号のように各地の面白い話題を満載。夏休みに開かれた全国中学生大会の成績も、もれなく収録した。

バドミントン界〈47年10月号〉

【特集】ト杯アジア東地区決勝
・日本1－3のピンチ（第一日）……6
・同点も及ばず、涙のむ（第二日）……8
・これでよかったか、二つのトラブル……10
【特集】ミュンヘン五輪報告
・中山夫人、再び女王の座に……14
〈全試合の記録〉
・参加11ヵ国26選手を紹介……16
・遠征で感じたこと〈川端団長のレポート〉……18
・バドミントンは哀しからずや〈特派員の目〉……19
◇競技会・全国中学生大会
——男子は奈良、女子は大阪が優勝……12
◇百万人のバドミントン上達法
・落ちるタマの効用と練習法……22
・バックハンドをマスターしよう……23
・プレーヤーへの手紙〈続・名和選手の巻〉……29
◇初歩からの体力づくり〈第三回〉……25
◇ワイド版・北から南から……28
・もと国体選手の教師、逮捕さる
・ミニで気分もスカット〝ジャンボ・クラブ〟
・ぼくらも一生懸命やってます
・ショック、引き受け手なし島根国体会場、ほか
【特集】写真グラフ——ト杯、インタハイ
・レコード……32
・今月のことば……36
・ダイジェスト……5
・次号予告、編集室……36

スタッフ／表紙撮影・松井亮麿／同製作・小浜正道／グラフ写真ほか・山田真市、池田茂樹／イラスト・秦　浩／編集・明本薫／庶務・本島道子／協力・日本協会事務局、各加盟団体関係者、愛読者

トマス杯
アジア東地区決勝
日本×マレーシア

トマス杯男子世界選手権大会のアジア・ゾーン東地区決勝、日本×マレーシアは十月七日、八日の両日、午後1時半から東京・代々木競技場第二体育館で開かれた。

日本は第一日、必勝を期していたシングルス2試合をともに失い、1－3というピンチに立たされた。第二日に小島、秋山の両ベテランが奮起して雪辱するなど意気大いにあがり、一旦は4－4と追いついた。

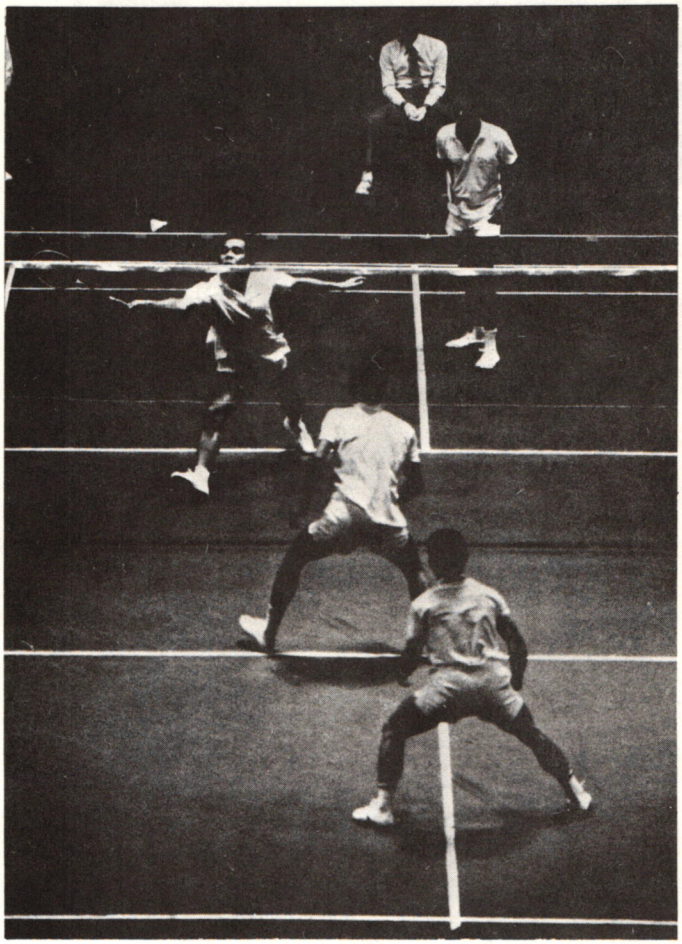
しかし最終ダブルス（9試合目）でついに力つき、元世界チャンピオン国マレーシアの前に屈し、涙をのんだ。

マレーシアは本年末までに決まる西地区代表国と、来年二月末までにアジア・ゾーンの代表権を争う。

日本もしや…の夢むなし

マレーシアがゾーン代表戦へ

4－5、追い上げ、最終の複で涙のむ



手痛い単の2敗（第一日）日本苦境

◇第1日（10月7日）

マレーシア	3	複1－1 単2－0	1日 本

▽シングルス

○タンアイクハン 15－7 15－6 5－15 秋山真男

タンアイクモン 15－11 18－13 ○小島一平

▽ダブルス

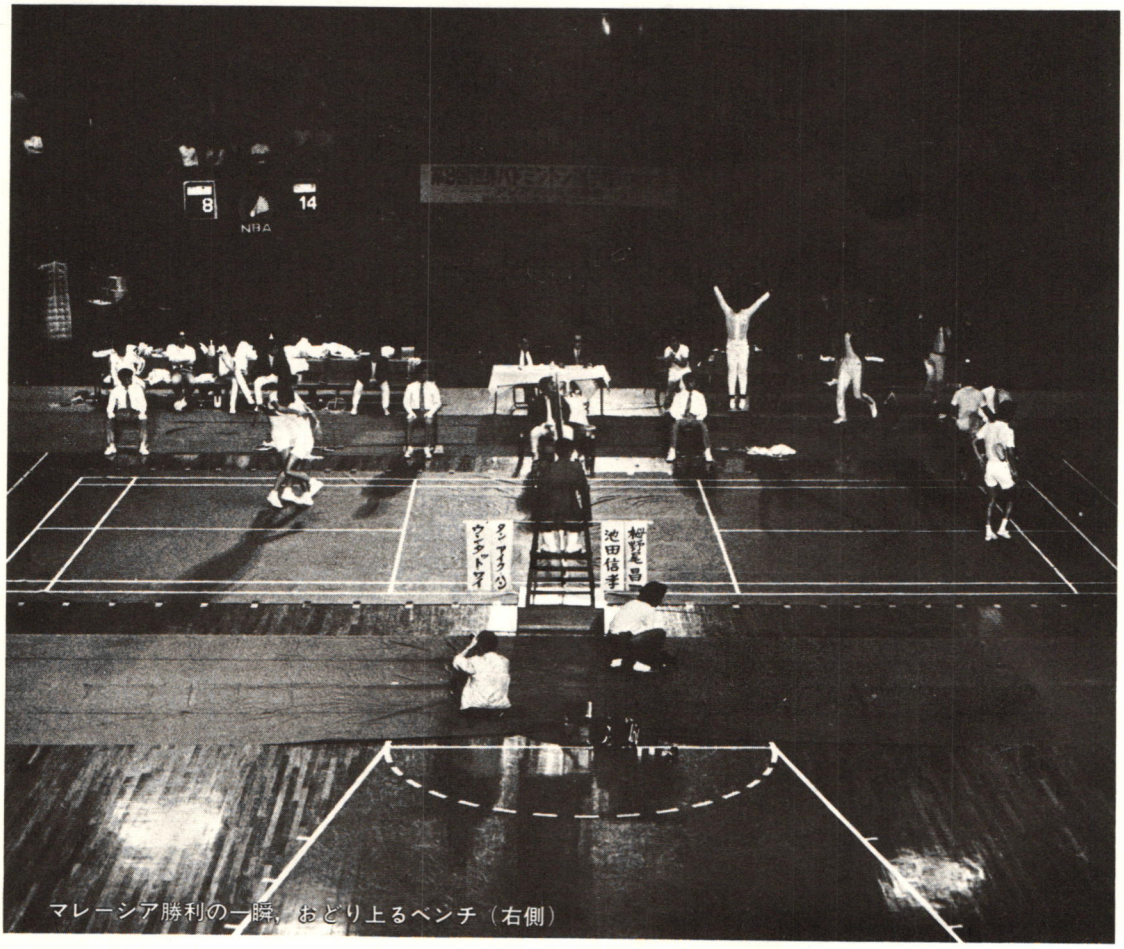
ウンブン、ビーP.グナラン 15－9 15－12 9－15 池田信孝 梅野尾昌一

タンアイクハン、ウンタットワイ 2－15 15－4 11－15 本間順次 今泉勉○

明暗分けた身長

リーチ、足…

日本はシングルスで全勝を期し、秋山、小島の両エースを送り込んだ。しかし、これが裏目に出た。2勝のつもりが2敗。



マレーシア勝利の一瞬、おどり上るベンチ（右側）

なんとしても痛かった。

客観的に見て、これは体位の差から来る違いが大きく影響した。東京新聞は、次のように書いた。「第一試合の秋山は身長166センチ、タン・アイク・ハンは178センチ。第二試合は160センチの小島×184センチのタン・アイク・モン、実に24センチの違いがある。リーチ（指極）の差は30センチ以上あるだろう」

リーチが長ければ、それだけ守備範囲が広くなる。それだけ足も長いから、日本が三歩で動くところを二歩ですましてしまう。それだけ早くシャトルに届き、早く返球し、早く攻撃できる。つまり、動きのスピードがある。

背が高いことの利点は、スマッシュの角度に現われた。一発エースがとれないまでも、二発、三発と急角度で足元に、ボディ正面へ、スピードあるタマをたたきつけられると、受け切れなくなってしまう。

もちろん、こうした〝状況〟は、日本としても当然、予測していたはずだった。これまで数々の国際試合で、秋山も小島もタン・アイクの兄弟に負け越してはいなかったことも考えると、日本の敗戦は、相手の進歩?を読みきれなかったか、大事な一戦で、ベテランといいながらやはり固くなったか、このへんに原因が求められそうだ。

いずれにしろ日本勢は先手をとられ、自己のペースでの試合展開ができなかった。相手を後陣に押え切れず、結果的には前陣からの強打をあびた。

秋山はファイナル、0－4から7－4と逆転したが、ここから進めず、小島も第2ゲーム9－10から4本もネット・タッチ・インを決められる不運もあって万事休した。小島は後半、モンをしきりにネットに誘ったが、この争いでも相手の柔かい手首の返しが印象的だった。

本間組、好コンビで1勝
第2複　初陣池田もがんばる

しかし、ダブルスは、これまた予想以上に日本が善戦した。第一複のグラナン組はアジア大会の優勝ペア。ウン・ブン・ビーは年をとり（34歳）ハラが出てきたが、ペアとしては、まだまだ手ごわい相手。日本は池田が初出場だったが、前陣でよく働いた。タッチの呼吸が早く、パートナーのタマもうまく動いて処理した。

どこからどういう角度に打っ

て出るか予測がつけがたく、マレーシアは調子が整わぬうちに追込まれた。第2ゲーム後半から、若いグナランが調子を取り戻し、パートナーをカバーし、エラーの多くなった日本をせり落とした。

負けたとはいえ、この強豪から1ゲームもぎ取ったこと、この間、栂野尾のサーブもなかなか好位置に放たれ、第二日の戦いに希望を持たせることになった。

0－3という絶対のピンチから、日本は貴重な1勝をあげた。

◇第2日（10月8日）

マレーシア 5 複2－2 単3－2 4日 本

▽シングルス

タンアイクハン 15－7 14－18 15－8 ○小島一平

○P・グナラン 15－12 15－11 15－17 本間順次

タンアイクモン 15－8 15－17 16－6 秋山真男○

▽ダブルス

ウンブンビー、P・グナラン 5－15 15－8 15－6 ○本間順次 今泉勉

タンアイクハン、○ウンタットワイ 15－12 15－8 池田信孝 栂野尾昌一

延々8時間、ファンも釘付け

〝同点〟に騒然「がんばれ」の声援

光った小島、秋山のシングルス

1－3から4－4。日本は気力を振るって同点に追いついたが、最後のダブルスで望みを絶たれた。

日本劣勢で迎えた最終日にもかかわらず、スタンドの入りは前日よりよく、マレーシア応援団に負けず、ファンが立ち上がって声援した。期待はしだいに高まり、白熱した試合展開は、観客の心をとらえて放さなかった。負けはしたが、延々8時間、男子のプレーの魅力を深くアピールできたことで、日本チームももって冥すべし、であろう。

この日は、前日と変わって、シングルスの健闘が日本ベンチを勇気づけた。

身長差のカベをハネ返せなかった小島、秋山がどう戦うかに興味があったが、二人は〝四角をていねいに攻める〟という基本に立ち戻って、こつこつと試合運びもよかった。とくにうまかったのはファイナル・ゲーム。実力の落ちる若手（21歳）のウン・タット・ワイを徹底的に攻め、コンビをくずした。14－0のマッチ・ポイントから2点を献上しただけで一方的だった。

本間・今泉は中大時代のコンビ。サウスポー同士とあって、相手はクロスに来るシャトルの角度にとまどったかもしれない。しかし、相手自体は急造コンビ。ダブルスは、まずコンビであり、そして調子に乗るかどうかが明暗を分けることを、この一戦はよく示していた。

モンのネットと足にやられた

板垣監督「シングルス2、ダブルス1に勝って3－1、悪くとも2－2でいけると考えていた。秋山がハンを苦しめながら、わずかに調子が狂い、スタミナがなくなっているはずのハンが、最後に集中力を発揮したのには敬服する。小島はモンの足とネットプレーにやられた。」



水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー

ファスト印シャトルコック 製造発売元

有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7 28

電話 02362（22）3994(代) 3280・0545



一時はわきにわいた日本ベンチ

合を運び、相手のエラーを誘い出した。

前日、ピンチに立たされたあとも日本は「しょげていなかった。全員があすは勝つ、と張り切っていた」（宮永コーチ）そうだ。ハン×小島は第2ゲーム中ばまでは、ハンが中前陣を占領して、早いタッチのドライブ、プッシュでペースをとった。小島には気負いから、ウォッチボールの判断の悪さも目立ったが、中盤以降は、小島の正確な配球に相手が根負けした形。

モン×秋山も同様、モンがアピンで秋山をひき寄せ、高い位置から打つ強打でゲームを先取した。しかし、動きすぎと強打への頼りすぎでモンは急激に疲れ、打球がコントロールを欠いて自滅への道を歩んだ。

池田に国際経験の差、出る

本間もマッチポイントから逆転負け

第二試合で本間が破れ、マレーシアは4点。日本が絶体絶命の立ち場に立ったときだけに、秋山の勝利は貴重なものだった。

結果論からいえば、本間がシングルスで勝っていれば、日本の逆転勝利が実現していたかもしれない。この試合、第3ゲームで本間は14－9とマッチポイントを握りながら勝てなかった。14オールから14－16と逆転され、一旦、16－16としたがダメだった。この間、9本のサーブ権を得たが生かせなかった。

どうした、というのはやさしい。しかし、ファイナル・ゲームに来るまでの本間は、しばしばショート・サービスを使って叩かれ、ロング・サービスもクリアも浅く中途半端で逆襲される原因をつくっていた。

アガって自己を見失っていたと思われ、その〝大試合での接戦〟のキャリア不足が、土壇場で象徴的に現われたといえるだろう。

しかし、本間はダブルスでよく立ち直った。イキの合ったコンビで先手をとり相手の強打の機会を封じた。後半、年長のブンビー（34歳）にタマを集中できたのもよかった。ゲームの起点であるサービスとレシーブがうまかったのがよかった。

最後のダブルスでは、池田に国際経験のない悲しさが出た。責任の重さに打ちひしがれていたことだろう。へっぴり腰となって足が動かず、栂野尾の強打の機会をつくれない。凡失も多く、第2ゲーム2－2から2－9と離されたのが痛かった。

ト”の抗議

残る疑問……

ト杯戦最終日、大事な試合のヤマ場で、二つのトラブルがあり、スタンドを騒然とさせた。しかも、処置のしかたが釈然とせず、場内にはこの出来ごとについての経過説明もなく、結果的に不手際と後味の悪さだけが残った。



最初に起きたのは、日本からマレーシアのサービスに対する「フォルト」のアピール。第二試合のシングルス、本間×グナラン戦で、グナランが逆転のマッチポイントを決める直前、問題は起こった。

一瞬の出来ごとで、正確に場面を描写するには、テレビのビデオでも再生してみるしかないが、大筋はこうだ。

グナランのサービスが放たれラリーに移った瞬間、日本ベンチから宮永コーチが立ち上って村野副審（明大OB）になにごとか抗議した。しかし、プレーはそのまま進行し、勝負が決まって、中山主審（早大OB）はゲームセットを宣した。この間、本間自身もラケットを放り出し、握手を求めに来たグナランに取り合わず「アッ」と大声でいって相手の方を指さし、やはり、なにごとか抗議した。

宮永コーチ激しく食い下がる

「グナランのサーブは反則だ」

もちろん、このあとで聞いた話だが、日本側のいい分は「グナランのサービスは反則のオーバーウェストだから、フォルトを宣言して、最後の1点の場面を最初からやり直せ」というものだった。

これに対し副審はほとんど取り合わず、やがて主審も審判席をおりてきて、やりとりがあったが、この間、マレーシア側はグナランをせき立てて、審判のスコアカードに勝者のサインをすませてしまった。

さらに日本側がくい下がり、話をオナラリ・レフェリ（名誉審判＝上訴審に当たり、競技場内での最高責任を持つ）の川端日本協会理事長に持っていった。しかし、騒然たる中で、川端氏は、スコアカードに試合成立を意味するサインをすませた。

川端氏はこれについて「主審が反則でない、というのでサインに応じた」としているが、ここまでの経過の中で、主審も副審も日本チームの抗議に、縮得いく説明をしたかどうか、この

ほしかった明確な審判の態度

スタンドも「くさいなあ」

やがて、審判は場内アナウンスで呼び出され、今度は「反則ではなかった」と宣言したのでケリとはなった。

これについてオナラリ・レフェリ付きの日本協会村山事務局長は「抗議は主将が主審に対してやるのがルール」と述べ、さらに「それにしても、その試合がおわったあとでアピールしたのでは遅すぎる」と見た。だが日本チームは「いや、すぐ立ち上って抗議したが、聞こえなかったのか、試合が進行してしまった」という。

筋はともかく、審判団はなぜ即座に、明確かつ厳然と処置できなかったのか。

へんには疑問がある。

なぜなら、その直後、主審と副審は、どこかへ雲がくれ？してしまい、事態が進展しないというので日本チームの首脳も場外へ出てきてしまったからだ。

このとき日本チームは、次のように語っている。「あれがフォルトでなければ、フォルトはない。しかし、審判はとり合わないのだから、どうにもならない。しかしルールはルール。審判が反則はなかったと明確にいえば引き下がる。」

実は、問題の直前、マレーシアがシャトル交代をひんぱんにやりすぎて、副審が忙しく、つい、この時点で反則をチェックするための判定板（透明合成樹脂製中央に線が引いてある）を使っていなかったのだ。

一方、スタンドにいた日本協会役員たちも「あの前から、問題のサービスが何度も見受けられた。しかし、これに対し、審判は〝寛容〟でありすぎたようだ」と、やはりマレーシア〝有罪〟の疑念を表明した。

そして「大切な場面で厳しい判定を下すのは勇気がいるが、むこう（マレーシア）はどさくさにまぎれ、よくこういうクサ

通らなかった“フォル

……“線審交代”の処置にも

いことをやる」といった。

これ以上、いじくり回しても水かけ論になりそうだから、次に、二つめのトラブルに話を移す。ダブルス第一試合の本間組×グナラン組第2ゲーム、日本7－11から、本間が相手後陣深くサービスを入れた。

マレーシアはこの一球を見送ったが、線審の判定は「イン」これに対し、マレーシアは一文句つけたが、線審（法大・田所選手）は判定を変えなかった。そこで（かどうかは当人の説明を聞かないからわからぬが）マレーシア・ベンチは、オナラリ・レフェリに「この線審を変えてほしい」と申し入れた。

本来なら、とんでもない話だが、川端理事長、今度はこれをあっさり受け入れてしまった。話はそれだけである。しかし、この出来ごとがスタンドの目にはどう映ったか。

「進行をスムーズにするため」無罪でも犠牲者になった線審

この試合がフル・ゲームにもつれ込み、第2ゲーム終了で一旦、休憩に入ると、記者席から各紙の報道関係者がバラバラと飛び出し、川端氏を囲んで説明を求めた。

川端氏の説明「日本の抗議（グナランのオーバーウェスト）で、むこうもエキサイトしている折りから、進行をスムーズにするため認めた。権限は私にある。こうしたことは国際試合では慣例的によくある。ミス・ジャッジを理由に、また相手の圧力に屈して代えたのではない」

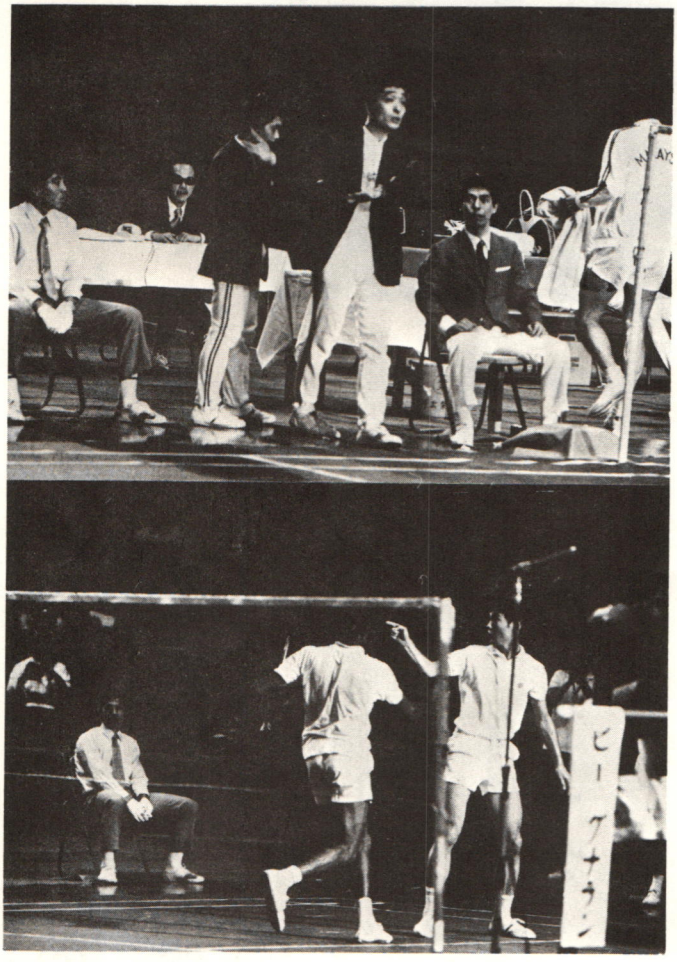
しかし、残念ながら、だれが額面通り受け取るだろうか。ここで、いくつかの問題が残ることに気がつく。

①交代は、日本の審判の権威、信用をみずから否定したことにならないか②誤信の結果ならともかく、恥をかかされた線審の〝心の傷〟を全然、思いやらないのか③日本人は外人に弱いという印象を与えたことにならないか④もし要求が日本側から出ても、交代させただろうか。

もし、交代の要求が容れられず、マレーシアが怒って、試合をボイコットするというのならさせるがよいだろう。そんなトラブルはないに越したことはないが、起きたとしても、日本が恐れる必要はないのだ。責任は先方にある。

もう一ついうならば「交代は慣例的」だとしても、ここは日本であり、正常な態度で臨むべきではなかったか。それとも、日本もこれまで外国遠征のさいわがままをいって、それを通させてきた〝前科〟があるのだろうか。

（東京新聞・後藤忠弘、北海道新聞・武田義巳）

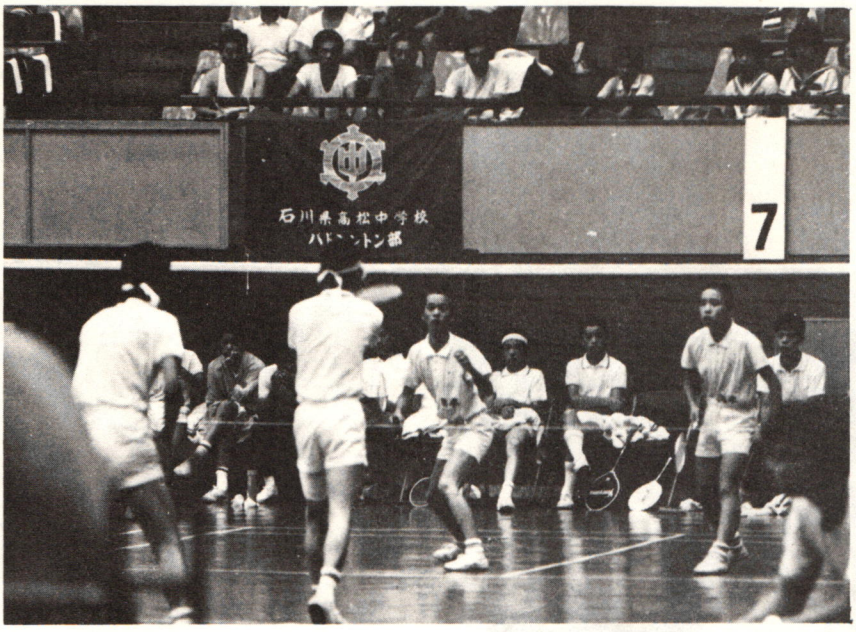


これが問題のシーン

グナランはオーバーウェストでなかったか――（写真上）宮永コーチ（中央）はゼスチュア入りで説明（写真下）本間選手も抗議した。

第2回全国
中学生大会
（愛知県体育館
8月18日―20日）

男子は奈良県が初優勝
堂々2連勝　大阪（女子）依然強し



第二回全国中学生大会は八月十八日から二十日まで、名古屋市の愛知県体育館で開かれた。全国三十二都道府県から男女各三十三チーム（地元愛知県のみ各二チーム）、約四百名の選手が参加した。

男子は前年優勝の滋賀が準々決勝で姿を消し、決勝は奈良と石川が争ったすえ、奈良がストレート勝ちで初優勝した。女子は関西同士の対戦となったが、大阪がやはり強く、奈良をストレートでくだし、堂々二連勝を飾った。

（記録の詳細はレコード欄）

守りたいルールとマナー

この大会に使用された愛知県体育館は、大相撲名古屋場所でも知られているように、全館冷暖房の設備が完備している。前々年、インタハイを開催して経験ずみであるが、今度の大会でも、競技にさし支えない程度の冷房をきかせた。

バドミントン特有の〝ムシぶろ〟の中での試合という、かつてのイメージを一新したという点では、特筆される大会となった。

男子では昨年度三位の奈良県が、連合チームながらもよくまとまり、準決勝で福井に苦戦した以外は、すべて2―0で押え切った。

女子の大阪は四条畷学主体。一、二回戦ややもたついたが準々決勝からは気をひきしめて文句がなかった。決勝は関西同士の争いだったが力の差ははっきりしており、単複ともに大阪が一気に押し切った感じだった。

今年の出場は32都道府県。うち今年の初参加は福島、静岡の2県。前回、男女のいずれかで今回男女そろっての出場となったのは青森（女子初）石川（男子初）山口（女子初）高知（男子初）。逆に前年参加しながら今回出なかったのは埼玉と千葉である。

また二年連続、男女ともにそろっての出場は27都道府県にすぎず、この二年間、男女のいずれも参加しなかったのは①秋田②長野③山梨④和歌山⑤広島⑥島根⑦愛媛⑧福岡⑨大分⑩宮崎⑪佐賀⑫鹿児島⑬沖縄――と実に13県。中学生の普及のむずかしさが現われている。

競技面では全体として、やむを得ぬことながら基礎体力の不足が目立つ半面、テクニックはかなり高度だった。しかし、この段階で〝固まる〟ことなく、まず基本技の充実を最も重視してほしいものだ。

ルール面ではサービスに疑がわしい点が見られたほか、選手が判定について直接、主審に抗議する姿も目立った。大人にもよくないプレーヤーはいるがルールは守りたいもの。日頃の各校での指導に問題がないかどうか反省したい。

（広報委員会・大場直美）

◇……男　子……◇

▽準々決勝

熊本 2－1 富山

相良、片桐（八代一）　12－15 15－17　表、山下○（八代二）（上庄）
○林田（桜山）　18－14 15－11　毛利（三成）
○石黒（桜山）　15－1 15－12　加治（氷見南部）

奈良 2－0 兵庫

○吉岡、岡田（郡山南）　13－18 15－6 15－4　飯尾、山下（住吉、八多）
○平山（安堵）　12－15 15－8 17－14　安田（三田学）

石川 2－0 滋賀

牧野、大門（高松）　15－2 15－9　西部、浜村（南郷、打出）
○酒井（高松）　15－12 15－2　加藤（粟津）

福井 2－1 大阪

○山崎、黒川（山陽）　15－10 10－15 15－4　田島、大隅（摂陽、交野一）
伊藤（勝山）　15－17 1－15　富田○（交野一）
○諏訪（勝山）　15－7 8－15 15－6　山口（交野一）

▽準決勝

石川 2－1 熊本

牧野　15－13 15－9　相良○
大門　片桐

酒井　7－15 13－15　石黒○
○西川（高松）　17－14 15－3　林田

奈良 2－1 福井

吉岡　15－6 17－14　南出（松陵）○
岡田　山崎
平山　15－11 0－15 10－15　伊藤○

○春井（正強）　10－15 15－9 15－11　諏訪

▽決勝

奈良 2－0 石川

○春井、堀切（正強）　15－7 15－11　牧野
吉岡　18－13 7－15　大門○

◇……女　子……◇

▽準々決勝

大阪 2－0 高知

○河村、北村（四条畷学）　15－7 15－18 15－2　尾崎、大坪（土佐女）
○秋本　11－2 11－0　岡村（四条畷学）（土佐女）

滋賀 2－0 富山

○森下、藤田（日吉、南郷）　15－11 15－3　米倉、高畑（利賀）

○井口（日吉）　11－3 11－3　小松（富山東郡）

東京 2－0 京都

○佐藤、水野（中台）　15－9 15－2　祖泉、高倉（嵯峨）
○徳永（中台）　11－8 11－7　中沢（桂）

奈良 2－1 栃木

奥谷、西川（北）　14－18 15－6 8－15　石川、椿○（中村）

○岩井（田原本）　12－10 11－6　鯨（？）
○桐山（都南）　11－9 11－8　杉山（真岡）

▽準決勝

大阪 2－0 滋賀

北村　15－13 15－12　森下
○河村　藤田
○秋本　11－4 11－6　井口

奈良 2－0 東京

○奥谷、西川　15－2 15－8　佐藤、水野
○岩井　12－9 11－7　徳永

▽決勝

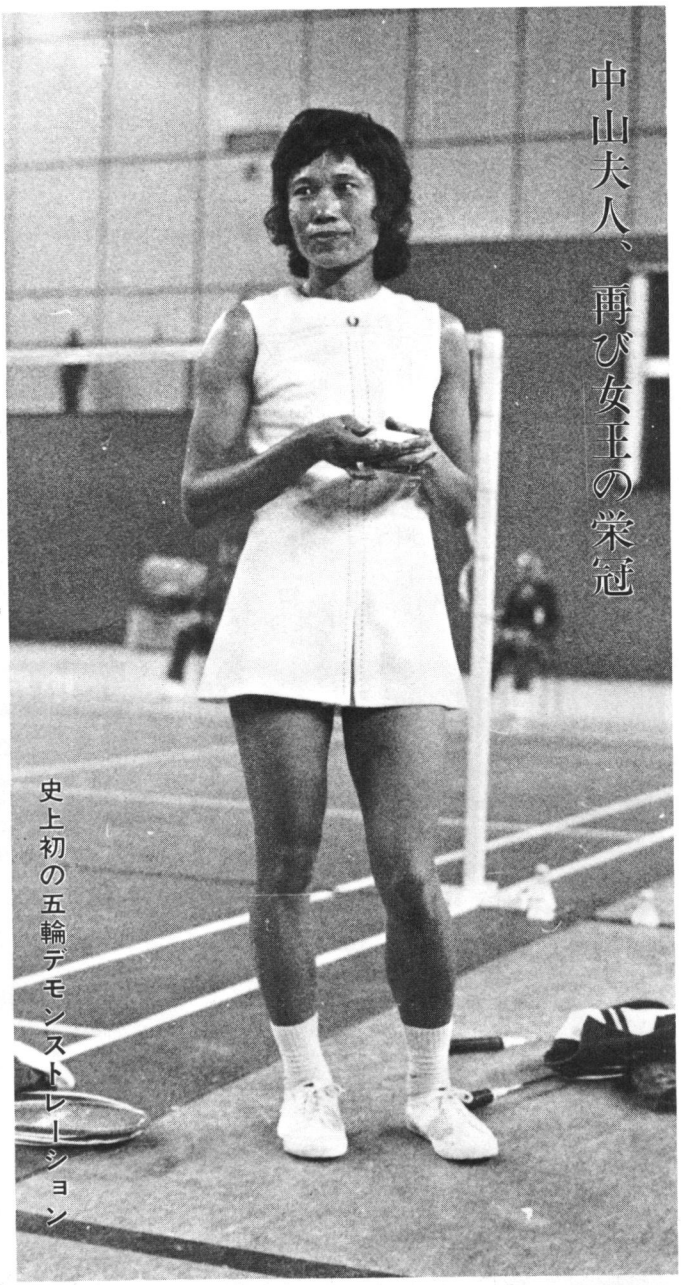
大阪 2－0 奈良

北村　15－4 15－2　岩井
○河村　吉谷
○秋本　11－1 11－2　桐山



男子優勝の奈良県と女子優勝の大阪府チーム

中山夫人、再び女王の栄冠



史上初の五輪デモンストレーション

一九七二年九月四日は、近代バドミントン史上、最も記念すべき日となった。ゲリラ事件という、悲しむべき〝付録〟まで加わって、世界中のスポーツ・ファンの注目を集めた第二十回オリンピック・ミュンヘン大会――この席上で、史上初めてバドミントン競技が公開されたのである。

いわゆる〝デモンストレーション〟で、金メダル争いの勘定の中には入らない性質のものだったが、それでも、この大会が果した意味は決して少なくないだろう。少くともバドミントンが、真の意味で〝世界のスポーツ〟へと躍進するきっかけをつかんだことは確かだ。

大会では女子ダブルスを除く4種目がトーナメントで行なわれた。日本からは川端昇市・日本協会理事長を団長（監督）に男子・小島一平、女子・中山紀子、湯木博江の三選手が参加した。以下、概略を報告する。

新時代への扉あく

歴史に刻まれた1ページ

競技は九月四日午前十時からバレーボール会場（バレーは当日休み）で開かれた。参加者はすべてIBFの〝指名〟で決まったもので、地元の西ドイツ、日本をふくめ十一ヵ国から男女計二十六選手だった。

しかも、同一選手が多種目に出場するのを、なるべく避けようという方針で組み合わせが決められた。男子シングルスは予想通りハルトノ（インドネシア）×プリ（デンマーク）の争いとなり、ハルトノが圧勝して優勝した。

同ダブルスは全英選手権者のチャンドラ、クリスチャン組（インドネシア）が、女子シングルスは日本の中山紀子がそれぞれ王座につき、混合はタルボット、ギルクス組（英国）が勝って〝本家〟の面目を保った。

◇…男子シングルス…◇

▽1回戦

ハルトノ（INA） 15－12 15－14 18－3 ポールソン（カナダ）

S・ジョン（SW） 15－5 15－8 ゴエルソン（インド）

ボショウ（西独） 15－10 15－5 タンアイクモン（M）

プリ（デン） 15－11 15－2 ジャイエンマーク（タイ）

▽準決勝

ルディ・ハルトノ 15－8 15－4 スチュレ・ジョンソン

スベンド・プリ 9－15 15－9 15－8 ウォルフガング・ボショウ

▽決勝

ルディ・ハルトノ 15－6 15－1 スベンド・プリ

◇…男子ダブルス…◇

▽1回戦

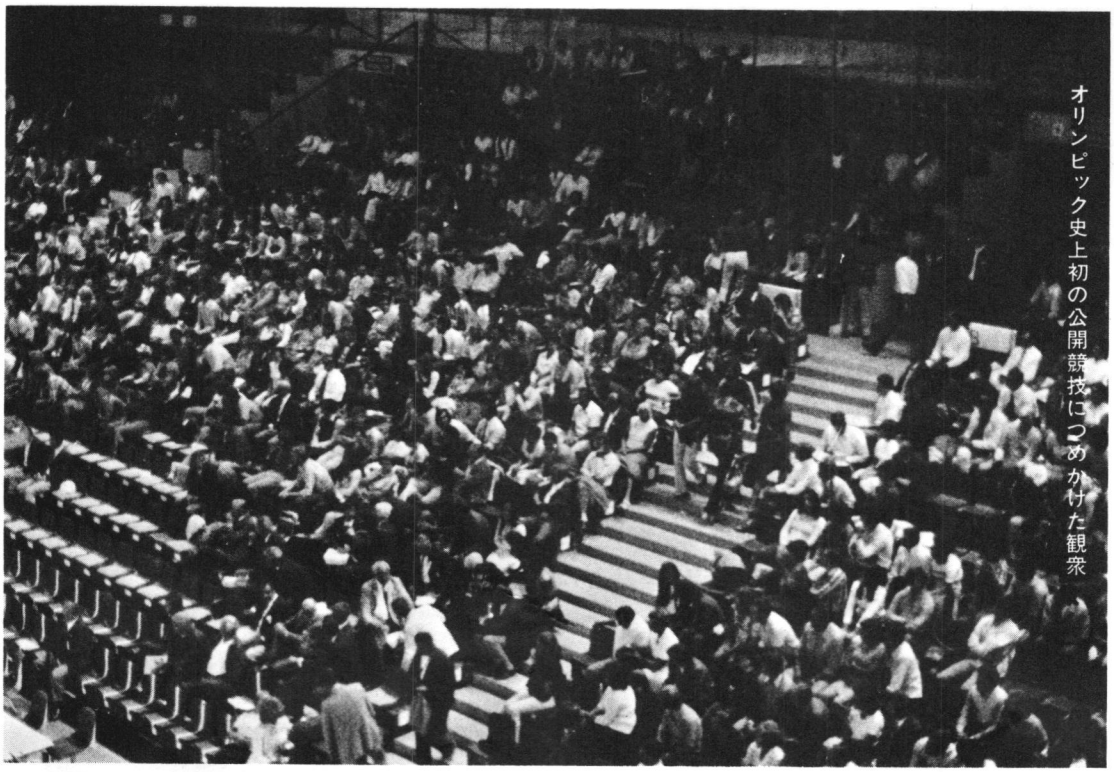
チャンドラ、クリスチャン（INA） 15－7 15－1 タンアイクモン（M）、ジャイエン（タイ）

スチュアート、タルボット（英国） 15－3 15－9 ボショウ、ポールソン（西独、カナダ）

ウンビンビー、グナラン（M） 15－8 15－1 小島（日）、ゴエル（インド）

▽準決勝

チャンドラ、クリスチャン 15－8 15－12 スチュアート、タルボット



オリンピック史上初の公開競技につめかけた観衆

男子単　ハルトノ健在，プリを圧倒

小島，即製コンビで強打不発　男子複

ブラウン
メイウルト
（西独）
12－15
15－10
15－11
ウンブンビ
ー，グナラン

▽決　勝

チャンドラ
クリスチャン
15－4
2－15
15－11
ブラウン
メイウルト

◇…女子シングルス…◇

▽1回戦

中山紀子
（日本）
11－5
11－4
ストランド
（デン）

ギルクス
（英国）
11－9
11－6
ステデン
（西独）

ウタミ
（INA）
11－7
11－8
ツェドベリ
（SW）

湯木博江
（日本）
11－3
11－2
バンビュー
セコム（オ）

▽準決勝

中山紀子
11－3
8－11
11－9
ギリアン・
ギルクス

ウタミ・デ
ビ
11－5
11－5
11－9
湯木博江

▽決　勝

中山紀子
11－5
11－3
ウタミ・デビ

◇…混合ダブルス…◇

▽1回戦

タルボット
ギルクス
（英国）
15－9
15－4
小島一平
中山紀子
（日本）

メイウルト
ステデン
（西独）
15－7
15－11
S・ジョンソン，ツェドベリ
（SW）

クリスチャン，ウタミ
（INA）
15－9
15－7
スチュアート，バンビューセコム
（英，オラ）

▽準決勝

タルボット
ギルクス
15－10
15－8
メイウルト
ステデン

プリ，ストランド
（SW）
15－12
15－10
クリスチャン，ウタミ

▽決　勝

タルボット
ギルクス
15－6
18－16
プリ
ストランド

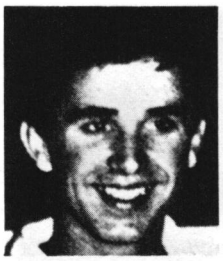
（注）記録中の国名略称は次の通り。INA＝インドネシア，SW＝スウェーデン，M＝マレーシア，カ＝カナダ，デン＝デンマーク，オ＝オランダ。

★　★　★

小島はダブルスにしか出場させてもらえなかった。パートナーのインド選手はオールドタイマーで動きが悪く，強打のスピードもなくて，小島が真価を発揮する機会がなかった。

女子の湯木は当然，勝てるはずの相手ウタミにやられた。湯木は自分より力が上の相手に対してはファイトでぶつかるが，逆の場合，集中力が欠落することがあり，これも一例だった。

男女を通じて欧州勢は打球にスピード，パワーがあるが，キメのこまかさとたんねんさが乏しく，スタミナもアジア勢にくらべ足りないようだった。



ブラウン



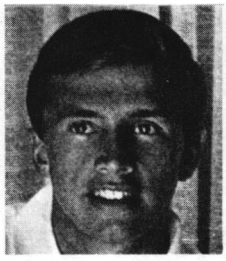
ボショウ



ストランド



プ　リ



ポールセン

カナダ

ジャミー・ポールセン（男）24歳、近年カナダの生んだ逸材68～72年シングルス、67～70、72年ダブルスの国内選手権者、70年英連邦大会でカナダ史上初めてバドミントンで金メダル。

デンマーク

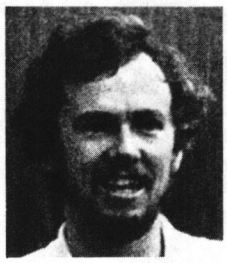
スペンド・プリ（男）数年にわたりナショナル・チャンピオン、国際代表20回。

ウラ・ストランド（女）さきに来日。数年にわたりダブルスの王座を占め、国際代表25度、62、63年コペロと組み全英混合複優勝。既婚。

プリ、ストランドのペアでは65、67、71、72年の四度、全英混合複優勝。

西ドイツ

ウォルフガング・ボショウ（男）28歳、国内ランク1位、国際代表36回、72年欧州選手権シングルス優勝、70年ゲルラッカと組み全英混合複2位。



メイワルト

彩った世界のスター

横顔紹介 ＝（大会プログラムから）



ステデン



ワクロウ

ウイリ・ブラウン（男）28歳
ロラント・メイワルト（男）24歳。このペアで72年欧州ダブルス優勝、国際代表21回。

ブリギッテ・ステデン（女）23歳、72年国内チャンピオン、国際代表11回。既婚。

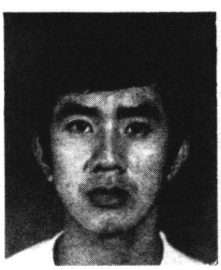
マリルイーズ・ジズマン＝ワクロウ（女）25歳、補欠代表、かつてのゲルラッカ以来の大物といわれる。68、70、72年欧州単2位。複と混合複で国内タイトル9度、国際代表30回。既婚。

英国

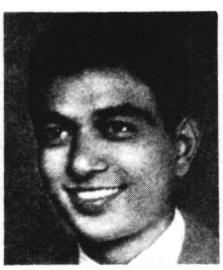
ギリアン・ギルクス（女）22歳。16歳で国際舞台にデビュー国内ランク2位、69年全英混合複、72年欧州女子複、混合複優勝、国際代表36回、既婚。

デレク・タルボット（男）25歳、国内ランク1位、国際代表22回、71、72年男子複国内選手権優勝。

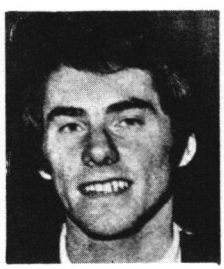
エリオット・スチュアート（男）25歳、タルボットの複のパートナー、69年以来、国際代表15回、単国内7位。



ハルトノ



ゴエル



スチュアート



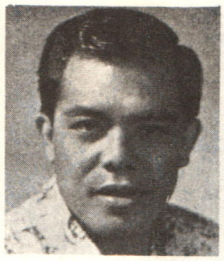
タルボット



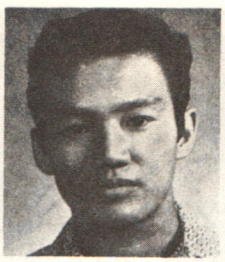
ギルクス



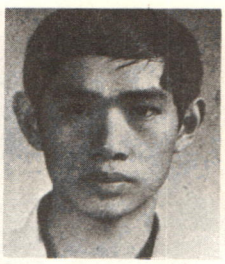
グナラン



ウンブンビー



チャンドラ



クリスチャン



ウタミ

インド

スレッシュ・ゴエル（男）29歳。数年にわたり国内チャンピオン、現在ランク2位、国際代表10度。

インドネシア

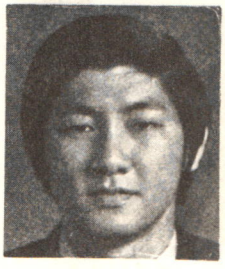
ルディ・ハルトノ（男）23歳 史上最強といわれるプレーヤー 68～72年全英単に5連勝、国際代表15度、日本の宿敵。

ウタミ・デビ（女）21歳、ユ杯でおなじみ。ハルトノの妹、69～72年国内選手権優勝、国際代表8度。

ハジナタ・クリスチャン（男）22歳、**アデ・チャンドラ**（男）22歳、72年全英に組んで初出場ながら、予想外の活躍で堂々優勝した。

マレーシア

ウンブンビー、P・グナラン、タン・アイク・モン（前号のト杯で紹介）ウンブンビーは現在国内選手権者で国際代表40回。全英の複ではタンイーカンと組み65、66年に、グナラン（国際代表10度）と組み71年に優勝。タンアイクモンは72年アジア選手権優勝。国際代表15度。



タンアイクモン



バンビューセコム

ミュンヘン五輪を

＝11ヵ国26選手の

オランダ

ヨーケ・バンビューセコム（女）19歳の若手、国内チャンピオン、国際代表22回。未婚。

スウェーデン

エバ・ツェドベリ（女）29歳 欧州一のベテラン、16歳で国際代表、国内タイトル合計31、国際代表40回、68、71年全英単、70年欧州単優勝。既婚。

スチュレ・ジョンソン（男）27歳、国内ランク1位、68、70年欧州単優勝、国際代表30回。



ツェドベリ

タイ

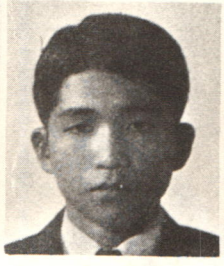
パンディット・ジャイエン（男）22歳。国内ランク1位、国際代表10度。

日本

中山紀子、湯木博江、小島一平＝省略



ジョンソン



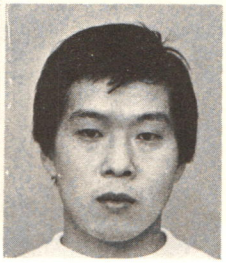
ジャイエン



中山



湯木

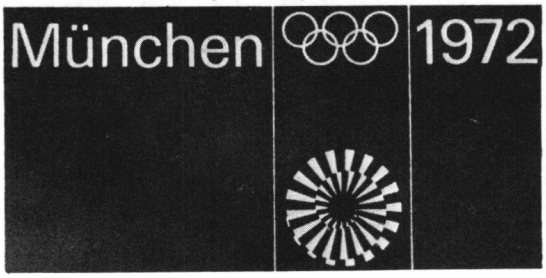


小島

ミュンヘン 遠征 感じ!

〈報告〉 選手団長 川端昇市

ミュンヘン・オリンピックの公式マーク



選手三人とともに、ミュンヘン五輪に参加した。団長として得た〝収穫〟をいくつか、ここに報告したい。ただし、結論からいって、この収穫は、決して〝うれしい〟性質のものでなかったことを、お断わりする。

バドミントンは、単なる公開演技にすぎなかった。たとえ全種目に優勝しても、正式種目の日本選手団の金メダルがふえるわけではない。それに、みな自分たちのことで忙しく、デモンストレーションなどという〝余計もの〟にかまっていられなかったのかもしれない。

○選手団本部は無関心

ひと口にいって、選手団本部は、我々の存在に全くといっていいほど無関心だった。

ミュンヘン入りしたのが八月二十四日。試合のある九月四日までは十日もあったが、午前中、練習をやる以外、ほとんどすることがなくテレビばかり見ていた。なぜなら、どこへも行けなかったからである。

それは我々の通門証（これがないとIDカードがあっても選手村の出入りもできない）がバドミントンだけのもので、他の競技会場へ出入り出来ないようになっていたからだ。

我々も同じ日本の仲間を応援したいと思い、本部にもかけ合ったが、もうこの時点では入場券も買えなかった。いわんや、開会式にも入れてもらえなかった。実は開会式には「入場行進に加えてほしい」と頼んだのだが「正規の選手団でない」との理由で、もちろん、許してもらえなかった。

日本の選手団編成のいきさつや、ものの考え方からすると、これは当り前だが、マレーシアの連中などは「我々はすべての待遇が正式選手団といっしょなのに…」とヘンな顔をした。

試合当日、バドミントンに応援に来てくれたのはサッカーの平木、ホッケー黒済の両氏だけだった。両氏も〝正式〟メンバーではなく、我々と同室のグループ。その〝友情〟からで、誠にありがたかった。

強めたい日本の発言力

――なぜ小島はシングルスに出られなかったか

○事前の打ち合わせもなし

西ドイツと組織委自体のバドミントンに対する関心も、高いとはいえなかった。数あるスポーツの中からバドミントンをデモンストレーションに選んだのだから、さぞかし…と予想したが、期待を裏切られた。

○審判台はバレーを借用

第一、担当係員が一人だけ。めったにつかまらず、連絡をとるのがひと苦労だった。競技会のための事前のミーティングは全然なく、試合時間等も村のインフォメーションで確認しなければならなかった。プログラムも当日、会場で初めて見た。

会場はバレーボールのホールで、これにフーバー・コートを敷き二面（決勝のみ一面）でプレーした。しかし、照明はバレーのための〝直接〟照明だし、審判台もバレーの審判が座る背の高いイスを、そのまま転用していた。

こうした点について、IBFは何一つ注文をつけなかった。会場にはソネビル会長以下、シエラー、チルトン、ルイヤー等の首脳陣がいた。この中の何人かは数ヵ月前、東京で開かれたユーバー杯のとき、日本にさんざん勝手な注文をつけ、我々を手こずらせたのである。

はっきりいうと、IBFは国際スポーツ界の中で、まだまだ発言力がないし、その反面、日本などを甘く見ている、ということだ。大きな私自身の反省材料だった。

大会中、バドミントンを五輪に加えるための話し合いだの、中国問題などで討議の機会を持つのかとも思ったが、そうしたこともなかった。

反省といえば、今度のメンバーの選考にも疑問があった。ハルトノ、プリについで、三番目にはランクされるはずの小島がシングルスに出られない。半面、国際的に無名のインドのゴエルが単複ともに出ている。国際レベルにある米国、メキシコの代表も一人もいなかった。

○招待交渉も無事に成功

他国のことはさておき、どうも日本は〝うまくしてやられた〟感じがする。日本はもっとIBF内部で発言力を強めなければならない。同時に国内スポーツ界での立ち場も向上させなければならない。これが、これからの協会の課題である。

日本チームでは中山が当然のことながら、立派な活躍だった。また中山の名通訳と渉外力で来春の国際女子大会に呼ぶ欧州選手の交渉もほぼ成功した。この点の報告は、機会を別に譲りたい。

ばどみんとんは かなしからずや

特派員たちも，こう見た

勝ってもメダルではない

〝冷や飯〟をくわされ、笑いを忘れていた世界の女王に、四日やっと晴れの舞台が回ってきた。…選手たちは日本選手団のエントリーに入っていないためオリンピック選手村では〝日陰者〟の扱いを受けてきた。

たとえば川端昇市監督、小島勝っても〝日陰者〟扱い。こう新聞記者も見た――オリンピックそのものに押され、デモンストレーション関係の記事には残念ながら、ほとんどお目にかかれなかった。だが、ミュンヘンの各社特派員の中に、多忙な日程を割いて、バドミントンに目を向けてくれた人もいた。以下は、その記事の要約だが、この二編のポイントは、期せずして川端団長の報告の一節と一致している。

やっぱり〝日陰者〟扱い

…オープン参加（五輪公開競技）のかたちでミュンヘンにやってきたバドミントンの代表。日本の選手団と同じ選手村で生活をしているが、正式種目でないだけに、やはり日の当らぬ存在。「開会式ぐらい見たかったけれど、スタンドにも入れても選手の部屋は事前に選手団本部に話がしてあったのに、ぜんぜん用意されていなかった。また外国のバドミントン選手は、開会式で入場行進したのに、日本だけはスタンドで見ることすらできなかった。

バドミントンが、オリンピックの正式種目だったら、日本は女子の団体と同個人のシングルス、ダブルスとで三つの金メダルを間違いなく獲得し〝蝶よ花よ〟の扱いを受けることだろう。

だが現実はきびしい。この日も、個人女子シングルスで中山と湯木は、午前中に準決勝への進出を決定。しかし、いくら勝ってもメダルではない。

女王の中山は「正直いうと、やはりいろんな差別がありました。わたしたちに世界のトップだという自信と誇りがなければ、毎日がゆううつだったと思います」と遠慮がちにいう。

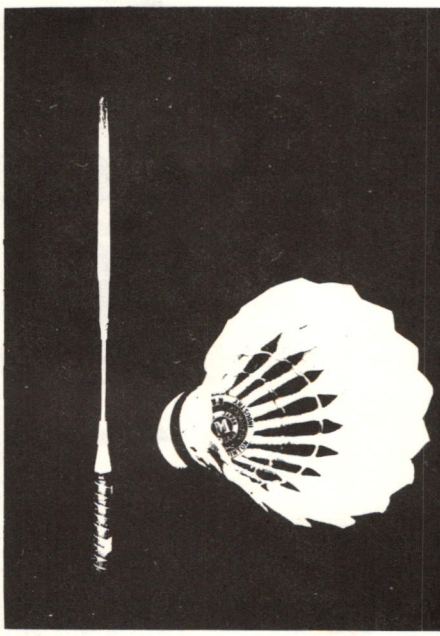
いくら勝っても騒がれない女子バドミントン。これもオリンピックのひとコマには違いなかった。（九月五日付けサンケイ新聞＝木村特派員）

らえなかった」と、中山、湯木選手は口をとがらせる「正式種目であれば、もっと張り合いがあるんだけど」という気持ちはやはりかくせない。

毎日の練習も、選手村から10㌔以上も離れた国防軍基地の体育館まで行かなければならない。オリンピックの会場や練習場とちがって、ここにはもちろん観衆も世話してくれる人もいない。それだけに選手たちは国境を越えて、本当の友達になりきっているようす。

日本の三選手も外国選手と盛んに冗談をいい合っている。

「選手村のホールでも、外国の選手はにぎやかな音楽をかけて、他の国の人とも楽しく踊っているのに、日本選手はほとんど見かけない。もっとスポーツばかりでなく国際親善を楽しむべきではなかろうか」（中山選手）（九月三日付け北海道新聞・東京新聞＝平垣特派員）



N. B. I. のC. M. BRAND

バドミントンの気品
CMの風格

‼ご存じですか‼

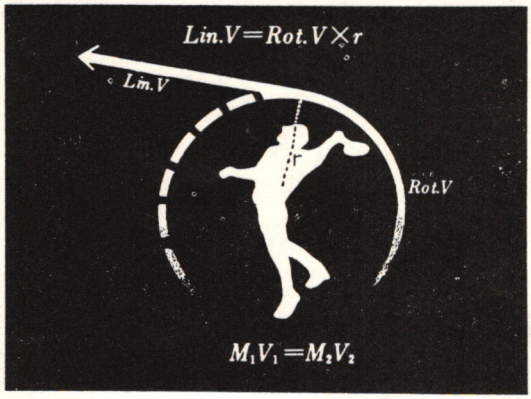
★ 我国でシャトルコック製法を一番先に機械化して水鳥シャトルを普及したのはCMです。
★ N.B.I はバドミントン普及発展のために製造から直売システムです。
★ 現金でお申込になれば卸価格でお求め出来ます。

日本バドミントンインダストリ株式会社
東京都三鷹市井ノ頭4－8－7　TEL 0422 (47) 3331(代)－3

一体製造がラケットを変えた。

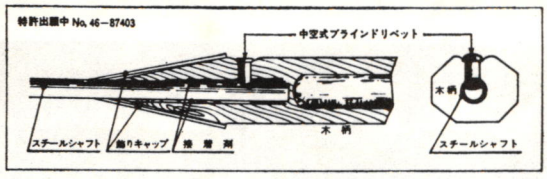
●力学に基づいて製造された、新製品です。

キャリーシリーズ、バトミントンラケットは、従来のシャフトとヘッド(フレーム)を接合した、ステップ付のラケットではなくシャフトとヘッドが一体製造になった、画期的な新製品です。



ハイクリャー、ドロップ、ロビング、ドライブ、スマッシュ、ショートサーブ、ロビングサーブ、ヘアピン、プッシュなど、ゲームの必要場面において、最も効果的な偉力を発揮するという専門家達からの好評を、受けております。

私達は常にプレイヤーの側に立ち、より強靱で軽く、ハイパワーを生み出すラケットを、研究・開発する事に、意欲を燃やしております。これこそキャリー・スピリット(精神)であると、自負しております。責任保証書付きのキャリーを是非一度、お手にとってごらん下さい。



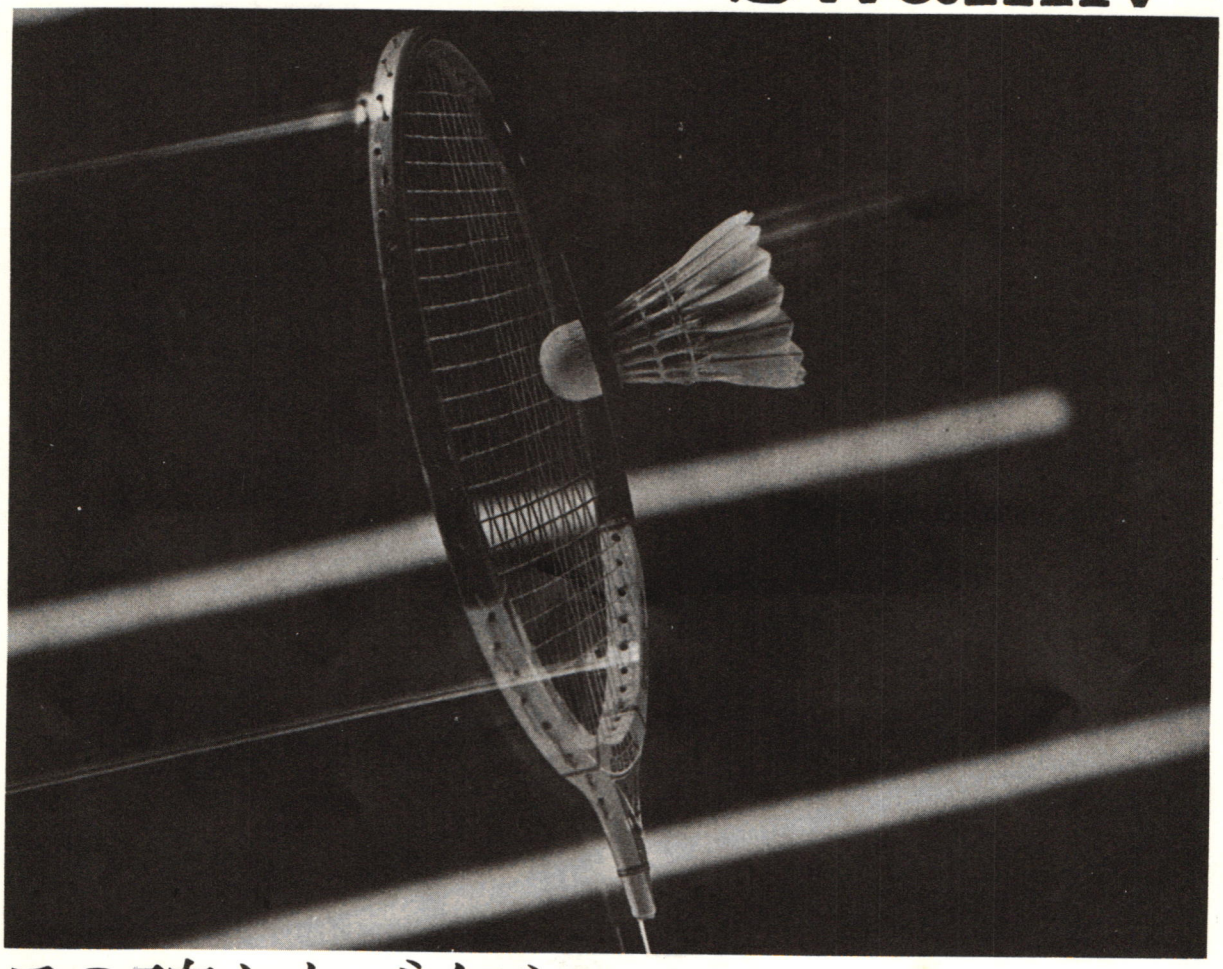
危害防止安全装置を施しているラケットは、いつもプレイヤーの安全をお守りしております。

●キャリー7Sステップ付シャフトフレームのみ ¥3,500
●キャリー7Gストレートシャフトフレームのみ ¥2,500

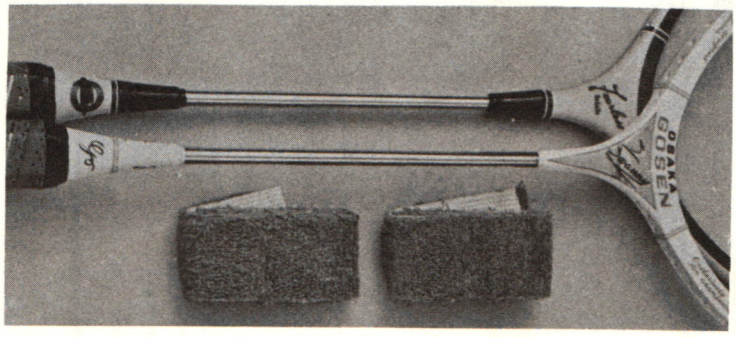
メトロレジャー株式会社
東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661(代)

《新発売》

Swannv



この確かなバイブレーション。
それはスワニー。



特殊合板の力強いフレームに、従来のものより長いステンレス・シャフトの強靭性が強力なバイブレーションを生み、重さも122g以下と今までより軽くなり、それがスピードとパワーの素晴しいバランスを構成し、ふりもシャープな一級品ラケットをつくりました。

No.β スワニー〈フレーム・カバー付〉 ¥3,800

☆お買い上げになりますとタオルグリップがついています。

大阪合繊株式会社
本　社・大阪市東区豊後町4 ☎(06)942-5816 代
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1 ☎(03)862-6576 代

〝落ちるタマ〟の効用と練習法

〝単独〟では効率低い

正確なクリアの中で生かして使う

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

さきごろのユーバー杯で高坂選手が、すばらしいカット打法を披露、注目を集めた。その分析は本誌35号の連続写真で、皆さんもご承知の通りである。今月は、このカットとドロップについて、若干、考えてみたい。

○中途半端は自滅のもと

これら二つのストロークは、いずれも攻撃のための有利な武器であると同時に、安全な〝逃げ〟の手段でもある。しかし、武器として使う場合には、カット、ドロップそのものだけでは効率は低い。

ハイクリアやドリブン・クリアのコントロールがよい中で、時折りこれらを使えばその効率は抜群である。野球にたとえれば、カットやドロップは〝変化球〟である。しかし、カーブばかり投げていれば必ず打たれる。スピードのある直球を持っていて、その中に変化球を混ぜると、生きてくる。こうした投手が、大投手といわれるのだ。

バドミントンでも同じだ。だから、換言すれば、カットやドロップを攻めの手段として使いたいならば、まずハイクリア、ドリブン・クリアのコントロールを体得することである。

カットは文字通り、シャトルをインパクト（タマと打面がぶつつかる）の瞬間、切り下すことであり、ドロップは軽くベタ打ちをし、ともに相手のネット前へ落とすストロークである。

カットは相手から打たれたシャトルに急ブレーキをかけ、極度にスピードを落すことを目的としているので、うまく、しかしだいに、垂直に近い状態でインさせるように配慮したい。

カットにしろ、ドロップにしろ、ヘタなことはできない。コースをねらいすぎてアウトにしたり、垂直に入れることにばかりとらわれて、ネットにひっかけたりのエラーはもちろん、甘いストローク、すなわち、フライトの長い中途半端な打球を持っていくと、相手に逆手をとられ、防戦一方に回るハメになってしまう。

確さを身につけなければならない。その場合も、必ずホーム・ポジションへの帰陣を忘れないことだ。

同じ所へ突っ立っていて小手先だけで入れる練習をしてもダメである。実際のゲームでは、相手に振り回されながら、コントロールよく入れなければならないからである。

だからホーム・ポジションへの往復を実行しながら、大体うまく相手コートへはいるようにも、コースを選んだならば、相手のフットワークを乱し、大きく体制をくずす役割りを果すことができる。

最大の効果を発揮するには、最も高い打点から、鋭く速く、可能な限り垂直に落下させることである。しかし、一流プレーヤーでも、垂直に入れることは非常に難かしい。初・中級段階の人達は丁寧にコースをねらって、まず入れることに専念し、何度繰り返して力説しても、しすぎということはないが、どんなストロークでも、中途半端なものは、自分の不利を招く。使い方がうまければ、攻撃として通用するし、ヘタすれば自滅につながるものである。

○動きとスピードの中で

次に練習について触れてみよう。第一に大切なのは、コントロールである。従って、同じコースばかりの練習を反復し、正なった段階で、左右どちらの方向にも振ってもらう。逆にこちらも相手の左右ネット前に、自在に入れるような、フリー練習に進むのがよい。

さらに進んだ段階では、相手をネット前に置き、オールラウンドにタマを散らしてもらい、こちらは〝オール・ショート〟の練習をするのもよい。大きな動きの中での正確性を養い、フットワークもつくからだ。相手にとっても、ネット前のタマをいろいろなコースへ配球する練習になるから一石二鳥である。

また、さらには配球のスピードをできるだけ早くしてもらうことも大切になって来る。これからのバドミントンには〝より大きな動きとスピード〟のある中に、しかも、キメのこまかさが必要だからだ。

○努力に勝る天才なし

何度も繰り返すが、動きの小さい中で、いくら練習をしてもいざゲームとなった場合には、なんの役にも立たない。試合では、練習時の70－80％の力しか発揮できないのが普通である。甘い練習をしていて、本番では実力以上を出そうというのはナンセンスだ。

できるだけ楽な練習をしようと思う気持ちが自分に出てきていないかどうか、日常的に反省してみよう。もし、思い当たるなら、自分に厳しくムチ打たねばならない。

懸命に汗しても一日、ぶらぶら練習ですごしても同じ一日。ならば、すべては自分のためだと考え、きょう一日、頭と身体を完全燃焼させて、悔いの残らぬようにしたい。努力に勝る天才なし、である。

バックハンドをマスターしよう(上)

グリップの重要性を再確認した上で取り組むこと



飛来するシャトルをヒットするとき、シャトルが自分の右側にきたときはラケットの表面で捕え、左側にきたときは裏面で捕える、ということは以前に記しました。そのラケットの表と裏をうまく使いこなすためにもグリップは手首が軟らかく、しかも深くそるイースタン・グリップが適当であるということも記しました。ここでグリップの重要性というものをもう一度、認識してみたいと思います。

ともすると初心者の多くの人は、教えられた当初は一生懸命にイースタン・グリップでラケットを握っているのですが、ラリー中に知らず知らずのうちに、追羽根スタイルとなり、グリップもウェスタンになってしまっている人が多く、また、折角イースタンで握っていても自分の左側（バック）にシャトルが飛来すると、無意識にラケットの表側で処理（軟式テニス・スタイル）している人も多く見られます。

これはネット際に飛び込んでプッシュ気味に相手へ返球したり、打点がからだより前方にある場合には意外に簡単に返球することが可能ですが、打点が自分のからだと平行か、それより後方になったときは、もうこのグリップやラケットさばきでは処理できなくなってしまいます。みなさんも体験ずみではないでしょうか。

このように左側にきたフライトを、もしウェスタン・グリップで処理しようとするならば、どうしても上体を無理に傾けたり、腕を必要以上に深くねじまげたりしなければなりません。

不自然な体勢からの返球にはもちろん威力があるはずがなく、いわゆる死にダマとなってみすみす相手にチャンスを与えてしまう結果を招きます。ですからバックハンド・ストロークをマスターしようと思うならばもう一度グリップを確認する必要があります。

バックハンドによるストロークもフォアハンドと同じように、飛来するシャトルの速度や角度に応じて、振り出されるストロークの種類が異なります。

すなわち、フォアのオーバーヘッド・ストロークはバックではハイ・バックハンド・ストロークであり、サイドハンド・ストロークはバック・サイドハンド・ストロークであり、アンダーハンド・ストロークはバック・アンダーハンド・ストロークという具合に、三つの種類があるわけです。

バックハンドでフライトを処理する際に、特に気を付けなくてはならない点は、バックハンドではフォアに較べてどうしても非力（力が半減し）がちになるので、インパクトの瞬間はタイミングよく、腰の回転、全身のバネ、そしてスナップのそりをきかす、ということです。

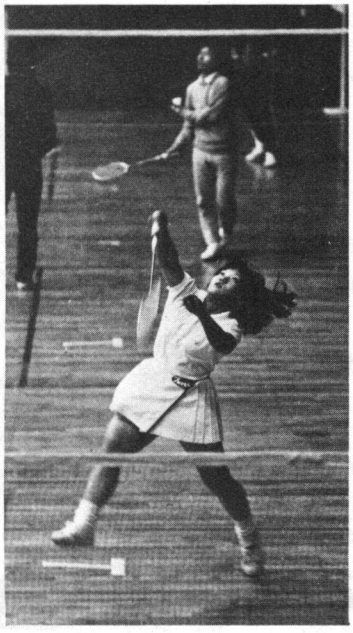
一流のプレヤーの中でもバックハンドがあまり得意でない人は、左肩か左頭上のあたりに飛来したフライトはラウンド・ザ・ヘッド・ストロークというストロークで処理する人も多いようです。というのは安易にバックハンド・ストロークは多用しないということなのです。

その理由の一つは、バックハンドで処理する場合、どうしても完全に相手に背を向けることとなり、ヒット後にホーム・ポジションへ戻るにしても、フォアハンドで処理した場合よりも、わずかに時間が余計にかかり、また体勢もくずれているからです。

つまり次の動作へ移行する体勢を整えるまでにも時間がかかる。〝時間との勝負〟といわれ、相手よりも少しでも有利な体勢になるためには、相手よりも早くシャトルに追いつかなくてはならないバドミントン競技では、このわずかな時間のロスが致命的となり、相手につけ込む余地を与えてしまうこととなるからです。

（続）

背の低い選手の活路はどこか



名和和子選手は全国高校選手権大会でダブルス、シングルスともに8位。国体で4位に入賞し、大学一年の新人戦で2位、三年生になってから東日本、関東選手権ともにシングルス3位、ダブルス6位になり東西対抗に選ばれております。

順調に伸びてはおりますが、本人によりますと、上京したてのときには精神的に、弱気になってしまったそうです。

女子のみならず、男子選手でも都会生活になじめないことはあり、あたら有望選手がバドミントンから消えてしまう例がありますので、名和選手の過去における、不安定であった、その時期をお知らせするのも役に立つと思います。

女性は買物が好きなようですが、名和選手は①買物に行くと、どれにしようか、どちらがいいかしらと、迷ってしまうそうです。

買物の例での迷いが、バドミントン・プレーに直結して、決断力をにぶらせていると回顧しておりましたことと、②東京の生活を夢みて上京したところ、理想と現実の矛盾や、地方から出てきたばかりのときはひけ目を感じたそうです。しかし自分にはバドミントンしかないと思い、新人戦にかけていたところ、シングルスで2位になったので、やる気が出たそうです。

①の迷うことはバドミントンでよくあることです。「壁にぶつかった」とか「伸びなやみ」といっておりますが、特別な難病ではありませんから、気にしないで、名和選手のように目標をたてるとか、精神的な悩みがあれば信頼できる人に、相談することもよい方法と思います。

この『バドミントン界』でも〝読者の広場〟がありますから、技術以外のこともどしどし相談したら、気分がさわやかになるはずです。

②も気の持ちかたしだいと思います。親元を離れての生活ですし、友だちはいても、自分一人の生活で大変なことは分りますが、私はよく、そうした学生諸君に「奉公か勤めで、都会に出てきたことを考えよ」といっております。

住込みでお店に入ったり、会社勤めでは学校のように春・夏・冬休みに（合宿はあるにしても）長期間帰省することは不可能です。勤めの人たちに比較すれば、学生のほうが時間的に余裕があるわけです。

学業とスポーツの問題も、悩みのタネです。練習―試合―練習の連続ですから、勉強が遅れてしまうのではないか……と心配はありますが、勉強もバドミントンのごとく、毎日少しずつやっていれば、それほど「杞憂」にならずにすみます。

名和選手には、精神的な強さが出てくれば、勝てる試合が多くなります。今までの試合も背は低くても、大きな試合をやっておりますし、インカレのダブルスで、準決勝に進出しております。高校時代はダブルス・シングルスともに、よく練習をしたそうですが、現在はシングルスに重点をおいていると聞いておりますので、今後のシングルスに注目したいと思います。

ほかのスポーツでも身長に関係なく、大記録や世界新記録を残した選手はかぞえきれません。名和選手もシングルスの戦略として、クリアのコントロールを修得すれば、長身者が相手であっても、恐れるにたりません。

普通の選手が、クリアを2本打つところを3本、3本打つゲーム展開なら4本と打つようにし、しかもそのクリアは、全部ハイクリアにする。全部ハイクリアなら背の大きい人でも、中間でシャトルをとれませんから、バック・バウンダーリー・ライン附近まで、後退してくれます。

そして勝負を一気に決するチャンスには、危険を承知でドリブン・クリアの非常手段も、時として必要になってきます。以

〈プレーヤーへの手紙〉　続・名和和子選手をモデルに

“迷い”は難病ではない

精神力は練習の積み重ねから生れる

前・日本教職員連盟常任理事　三須徳次

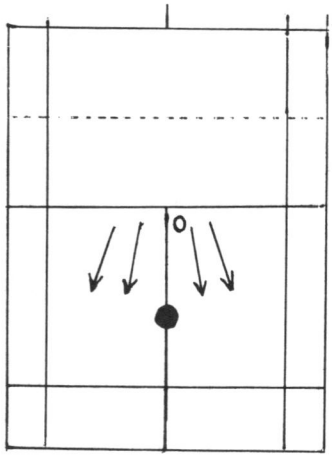
上のクリアの高さ、低さに加えて、相手を意のままに動かせるコースへ、シャトルを送り込ませるコントロールが絶対に欠かせません。クリアの応酬で負けない練習こそ、チャンピオンへの道程と申せます。

ダブルスにおいて、パートナーがサービスをする場合に、・印の人（図参照）はパートナーの後ろ、センターライン上で構えております。

ショート・ロー・サービスの返球が、相手側も、プッシュで返されますと、前衛が抜かれた場合、↓印の位置附近は意外ととりにくい所です。半歩ぐらい足を踏み出せば返球できるのに、ほとんどの選手は足も出さず、ラケットも出さずに、見送ってしまうことがよくあります。

意識して見送っているわけではないのですが、シングルスと違って、前にパートナーがいる関係上、左右どちらにプッシングされたのか、一瞬、判断をあやまり、とっさに返球体勢がとれないのです。なんとかコート面すれすれに捕球しても、中途半端なレシーブになってしまいます。

・印に位置した名和選手は、相手側2名それぞれの返球コースとクセを、いち早く見破り、



移動する前に気持ちの上での移動ができ上がっておりますから、実際にシャトルが飛んできても、体重移行が上手におこなわれ、シャトルを捕える高さも少し前方ですから、比較的高い位置でのレシーブが可能なのです。

皆さんもダブルスのときに、サービス・レシーブをなんとか返す練習をし、その返球ができるようになったら、できるだけ高い位置での打点に気をつけるようにすれば、試合で見逃すことが少なくなります。

（次回は富山県の河村博之選手の予定）

初歩からの体力づくり

百万人のトレーニング入門

第3回

今日は、皆さん自身が、現在どのくらいの体力の持ち主であるか、測ってみるために、その方法の説明をします。

体力づくりの方法は、これまでにも述べたように、いろいろあります。しかし、あなた自身の体は、どこがよくて、どこがダメなのか、それを知らないでは本当のトレーニングの目標を立てることはできません。

これから述べるのは文部省が考え、最も広く行われているテストの方法です。この中で器械

自分の基礎体力を測定する

がなければどうにもならないのは背筋力と握力の測定だけです。学校や体育館にはたいていありますが、将来の役にも立つので、皆で買うもよいでしょう。

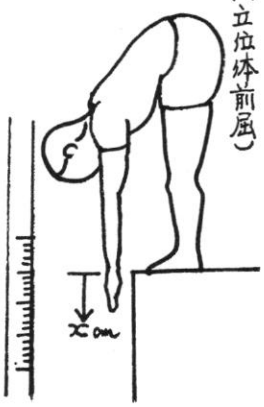
測定は三、四カ月に一度、できるだけ同じ状態で続けて下さい。正式にはテスト員（公認）の手を借りるのですが、お互い同士でやってもけっこう。巻末に全国平均値を表にしてあります。参考にどうぞ。

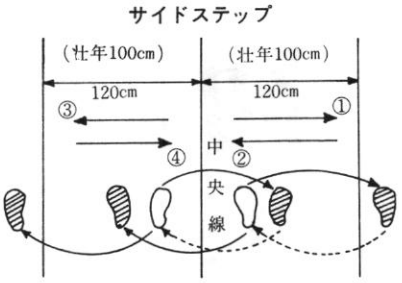
〈筋力の測定〉

①背筋力　背筋力計を用いる。ヒザ、ヒジをのばし、上体ものばしたまま約30度、前に傾けた姿勢で筋力計のハンドルを握り、全力でこれを上にひっぱりあげます。

二度やって（検査を受けるものがひとまわり終わって二度目をやる）、いい方の記録を採用する。数字はキログラムで、キロ未満は四捨五入。

②握力　やはり途中に休憩を入れながら左右交互に二回ずつやる。左右ともいい方の記録をとり、それを平均する。単位キログラム、キロ未満は四捨五入。









〈敏しょう性の測定〉

③反復横とび　1メートル20間隔（**注、壮年では1メートル**）にタテに3本の線を引く。その中央の線をまたいで立ち、まず「始め」の合図で左へサイドステップ（とび上がるのではなく、すり足のような感じで動く）し、左の線に触れるか越えるかして中央線に戻り、次に右の線に進む。いちいち止まる必要はなく連続して行なう。20秒やり、通過した線の本数を数える。休憩を置いて二回やり、いい方を記録する。本数を点で表記する。

〈パワーの測定〉

④垂直とび　パワーというのは筋力×スピードと考えられており、この最も簡単なものが垂直とびです。カベから約20センチ離れて横向きに立ち、カベ側の手を高くのばし、中指にぬった白墨でカベに印をつける。次に助走なしでジャンプし、一番高く上った時点で、中指でカベに印をつける。この二つの印の間の垂直距離を測る。テスト二回、よい方を記入する。

〈柔軟性の測定〉

⑤伏臥上体そらし　床にうつ伏せになり、両手はうしろ腰の上におく。両足を約45センチ開き、下半身が移動しないよう、だれかにヒザ裏から大腿部を押えてもらう。そのままの姿勢から上半身をうしろにそらす。アゴはできるだけあげてよい。床からアゴ先までを測る。二回測定し、いい方を記録する。

⑥立位体前屈　机のような台上に、足先を5センチ開いて立つ。ヒザをのばしたまま、上体をできるだけ深く前傾させ、両手を下方に伸ばす。台面を0センチとし、そこから下方に何センチのびたか、指先までの距離を測る。ゼロ・センチまで届かなければもちろんマイナス。二回測定、いい方を記録。前傾するとき、反動をつけたり、頭を両腕の間にもぐり込ませないこと。

〈持久力の測定〉

⑦踏み台昇降テスト　直立した姿勢から男子は40センチ、女子35センチの高さの踏み台に、のぼっておりる動作を2秒に1回のテンポで3分続ける。終わったらベンチに腰を下し、運動後1分～1分半、2分～2分半、3分～3分半の各30秒の3回の脈搏数を数える。次の式で指数を出す。答えは大きいほどよい。上り下りは片足ずつ正確に。

$$\text{指数} = \frac{\text{運動時間(180秒)} \times 100}{2 \times (\text{3回の脈搏合計数})}$$

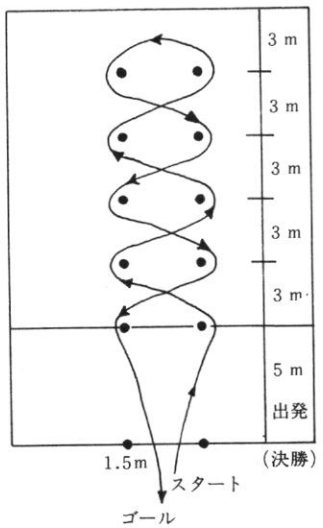
以上は青少年を対象に行なわれているテストですが、文部省はこのほか30～60歳の壮年を対象に、いくらかちがったテスト基準をつくっています。青少年用テストにないのはジグザグ・ドリブルと急歩の二つなので、これを簡単に説明します。

⑧ジグザグ・ドリブル〈巧緻性の判定〉1メートル間隔で対（つい）になったサオを5対ならべる。各対の距離は3メートル。さらに5メートル手前に1メートル半離したサオを1対おく。ここが出発点。図の矢印のようにボールをドリブルして帰る。

ボールはドッジボール2号（教育規格用品＝スポーツ用具店にある）途中でボールを握ったり押えたり、サオを倒したり、ボールを区域（タテ20メートル、ヨコ7メートル）外に出したりしたらやり直す。二度行ない、いい方を記録する。

⑨急歩〈持久性の測定〉男子は千五百、女子千メートル。いわゆる競歩のように、いずれかの足が常に地面から離れないよう急いで歩く。陸上競技場のようなトラックでの測定を原則とする。これは一回だけ。

ジグザグドリブル



年齢別体力診断テスト平均値

〔青少年男子〕

種別＼年令	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
反復横とび (点)	37.2	38.5	40.2	39.6	40.3	41.2	41.6	42.6	40.1	41.3	40.6	40.5	40.6	40.6	40.1	40.6	39.8
垂直とび (cm)	40.2	45.0	51.1	52.4	54.4	56.3	57.0	57.7	53.3	54.6	54.0	52.7	54.9	53.3	52.1	53.5	51.3
背筋力 (kg)	83.9	99.4	116.9	126.7	137.1	143.3	145.8	144.3	149.5	148.1	148.2	147.4	151.6	146.2	142.7	146.6	147.5
握力 (kg)	24.2	28.8	35.4	39.3	42.2	44.5	45.5	45.3	45.5	46.6	46.5	46.1	46.8	46.3	44.7	45.5	45.7
伏臥上体そらし (cm)	49.7	51.6	54.3	55.3	57.0	57.8	57.2	57.5	55.3	55.0	54.5	54.9	54.5	54.8	54.0	54.4	53.0
立位体前屈 (cm)	10.4	11.5	12.7	14.6	15.5	15.9	15.7	15.7	15.4	15.3	14.8	14.6	14.5	15.1	14.2	14.5	12.5
踏み台昇降（指表）	66.6	65.7	65.1	66.4	66.3	65.1	64.5	62.2	61.2	61.7	61.0	61.2	60.4	61.2	60.2	60.0	60.5

〔青少年女子〕

種別＼年令	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
反復横とび (点)	35.0	36.0	36.8	36.1	36.3	36.2	36.3	37.3	35.1	34.9	35.2	33.9	34.9	34.5	34.8	33.9	35.1
垂直とび (cm)	33.7	36.0	37.1	36.9	37.4	37.5	37.2	38.3	35.6	35.0	35.6	34.1	35.0	36.2	34.1	33.4	35.1
背筋力 (kg)	64.3	71.8	79.5	81.3	82.8	86.4	86.6	87.6	84.2	82.2	84.1	82.2	83.4	85.5	82.5	87.3	84.9
握力 (kg)	21.8	24.1	26.2	27.2	27.9	28.5	28.9	29.2	29.0	28.3	28.5	27.9	28.4	29.0	28.9	28.7	28.0
伏臥上体そらし (cm)	52.2	54.5	56.2	56.3	56.7	56.9	56.7	56.6	54.3	53.3	53.4	52.0	52.0	52.2	50.7	50.5	52.1
立位体前屈 (cm)	12.8	14.3	15.2	15.8	16.1	16.2	16.5	17.2	16.0	15.3	15.3	15.1	15.6	14.5	13.8	14.9	15.5
踏み台昇降（指表）	63.5	62.6	61.7	60.9	60.4	60.3	58.9	58.8	57.7	57.5	57.5	59.2	59.3	60.1	59.1	57.9	56.8

〔壮年男子〕

種別＼年令	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52	54	56	58
反復横とび (点)	41.8	41.4	41.6	40.9	40.5	39.7	39.7	39.8	38.9	37.8	37.4	36.4	35.6	35.2	34.3
垂直とび (cm)	52.2	51.6	49.6	49.4	48.2	46.7	46.1	45.1	43.6	42.6	41.6	40.8	38.9	38.3	36.5
握力 (kg)	47.5	46.6	46.6	45.7	45.8	45.1	44.7	44.5	44.5	43.9	42.7	41.8	40.9	41.2	40.6
ジグザグドリブル (秒)	16.8	17.6	18.0	18.9	19.4	19.9	20.2	19.9	20.7	21.2	21.7	23.1	23.8	23.9	25.4
急歩 1,500m (秒)	678.7	676.7	685.1	696.7	697.3	698.5	699.4	706.7	710.8	714.2	719.4	730.7	733.0	744.2	753.7

〔壮年女子〕

種別＼年令	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52	54	56	58
反復横とび (点)	37.4	37.1	36.5	36.2	35.5	35.1	33.8	33.7	32.5	31.9	31.5	30.7	30.2	28.4	27.2
垂直とび (cm)	33.3	33.1	31.7	31.4	30.5	30.1	28.3	28.0	26.8	26.1	25.0	24.6	23.3	22.5	21.8
握力 (kg)	30.4	30.3	30.0	30.3	29.9	29.7	29.4	29.2	28.1	28.3	26.8	26.4	26.6	25.6	25.7
ジグザグドリブル (秒)	19.4	19.7	20.1	20.6	20.8	21.0	21.2	21.6	22.3	23.2	23.4	23.6	24.5	25.9	26.9
急歩 1,000m (秒)	520.7	525.7	529.2	528.0	529.3	532.0	536.3	539.6	544.8	558.1	559.5	554.9	561.9	570.0	581.0

（44年3月文部省発表による）

もと国体選手の教師逮捕さる

詐欺・横領で　宮城県協会から除名

バドミントンの愛好者がすべて模範的な人間だ、とは毛頭思えないが、それにしても、この事件はショックだったろう。なにしろ、主人公が、もとバドミントンの国体選手、宮城県協会常任理事・競技委員長、しかも高校教師、バドミントン部顧問だったのだから…。

以下は地元紙・河北新報が伝える事件のあらまし。

×　×　×　×

生徒の授業料を横領、父兄から借金、行方をくらましている仙台市内高校教師の行状が明るみに出、仙台署は十月六日から横領、詐欺の疑いで指名手配の結果、同十二日、青森市内に潜伏中、逮捕された。

この男は仙台市聖ドミニコ学院高の元教師加茂和夫(三四)。九月十日ごろ、母親の病気を理由に休暇をとり、そのまま学校に出て来ないため、学校側では九月三十日に退職処分にしていた。

ところが、十月三日になって父兄から被害届けが出され、横領、詐欺の疑いが濃くなったもの。最初、被害は担任生徒の授業料の一部、バドミントン部父兄からの〝借金〟（バドミントン協会で至急、金が必要になった、といったそうだ）など、四十数万円程度と見られていた。

しかし、逮捕後の警察の取り調べによると、バドミントン協会役員の肩書きを利用、運動具店や知人などからも借金していたことがわかり、総額は実に二千四百万円にものぼる見込みだという。

このニュースをきいて宮城県協会は、びっくり仰天した。加茂は四十四年から宮城県協会の常任理事・競技委員長という要職についていた。選手のめんどうもよく見、協会への貢献度も大きかった。

協会では、さっそく理事会、緊急審査会を開いて対策を協議した。折りから鹿児島国体が近づいていたため「参加辞退」の声も出たが、結局は「協会として、このような人間を出した責任は感ずるが、事件は協会と関係がない」として、県選手団は国体に参加した。

しかし、協会としては、同人の行動が日本協会アマ規定第4章12条〈本会および本会加盟団体の役員は、競技者が模範とするに足る社会人として行動しなければならない〉に違反するとして除名、日本協会へ届けた。

バクチの借金で町の金融機関に手を出し、借金を雪ダルマ式にふやしたらしい。夫人とは九月半ば協議離婚したばかりだが二人の子供がいる。この子たちが可哀そうである。



“これがプレゼントだってさ”
この写真は某少女週刊誌に載ったもの。実はここに出て来るシャツ，スコート，ラケット，ソックスのセットをプレゼント（20人）のPRだって

“ミニ”で気分もスカッと

その名も“ジャンボ”ママさんクラブ

うれしいわ，若返って……

ママさんのバドミントンが盛んになってきたことは、本誌でもしばしば報じているが、ここに紹介するのは、東京・大田区にある〝ジャンボ・クラブ〟のお話。なにがジャンボなのかはご想像にまかせるとして、以下は、スポーツニッポン〝健康強化書〟が報じる特集の要旨――



写真は指導者講習会にモデルで出席したママさんたち

○最年長は五十五歳

「私たち、体育館に一歩入ったら、ママであることを忘れるんですの。子供に帰った気持ちでバドミントンをたん能することにしていますわ」

大田区区民センターの体育室、バドミントン用の三張りのネットでラリーの応酬。ジャンボな割りにはよく動く奥さん達だ。この姿だけ見ていれば、四十過ぎとは思えない若々しいふん囲気が充満する。

「私たち、こんなミニスカートはけるの、若くなったようでうれしいわ。町ではせいぜいヒザ上くらいだったのに、ここではだれにも遠慮はいらないし、当然ですものね」自称四十九歳のサラリーマン氏夫人。若いころ、バスケットをしていたが、四十五歳を過ぎてから急激に体力の衰えを感じ出したそうだ。

坂を登るにも子供達から「お母さんダメね」といわれ、チョッピリ自信喪失。それが二年後には少しくらいの坂はもちろんのこと、日常の生活に張りが出てきて、家事の方も能率が上ってきたという。

大正十二年生れの鏑木さんは五十五歳。最年長だが、周りからそういわれなければ気づかない。「体が敏しょうになったようね。先日も車にひかれそうになったけど、以前だったら完全にアウト。避けることが出来たのも、ここで反射神経を養っていたから」

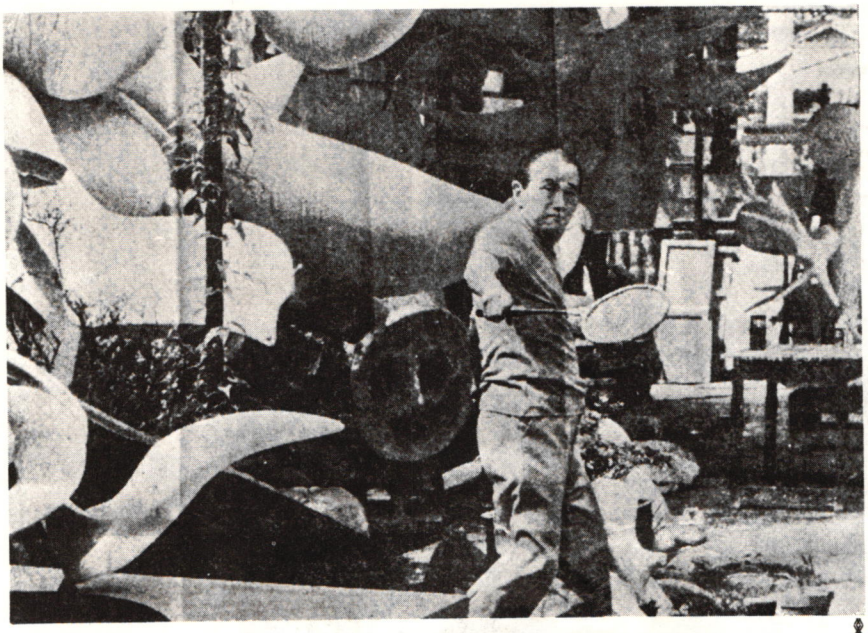
○体が敏しょうに

ジャンボ・クラブが発足したのは、ちょうど二年前。クラブの世話役真壁保子さんの思いつきからだった。

二人の子供も手を離れ、体重の方も上昇ぎみだったところから、何かスポーツをと、大田区のスポーツ教室に顔を出した。真壁さんは若いころテニスの経験があり、最初はテニスをする気でいたが、何とはなしにバドミントンのラケットに手を出したのがきっかけ。

多分に「羽根つきくらいの気持」で始めたようだ。そのうちテニスと違ったラケットの使い方や体の動きに気がつき、ついつい深入りするようになり、PTAなどで顔見知りの奥さん方をつのったという。

バドミントンに汗している奥さん方の始めた動機のほとんどが「スタイルをよくしたい」「運動不足を解消したい」「楽しそうだから」の三点にしぼられて



ぼくらも一生懸命やってます

天下の名士もバドミントン

岡本太郎・田中二郎氏

一般の支持率がしだいに上ってきたバドミントン。意外にかくれたところで〝名士〟もシャトルを追い、汗を汗しているようだ。先号では女優の左幸子さんの話をお伝えしたが、今回は壮年？　男子二人に登場していただく。

まず、左の写真は最高裁判事の田中二郎氏。日本経済新聞の〝スポーツばんざい〟という欄に載ったもので、ご自身の文章で次のように書いていられる。

「バドミントンを始めたのは昭和32年、東大教授のとき。狭い場所で手軽に出来るからで、キャンパスに簡単なコートを作り、よくやった。法学部長のころは学部長杯を出し、争奪戦をやるほど熱中したものだ。（むかしの大学はよかったですね、学生騒動も赤軍派もなくて）

若いころはサッカー、野球をよくやったが、どういうわけかボールのコントロールにはすぐれていた。バドミントンでも、いたが、その成果のほどをたずねると――

○円満になった家庭

当クラブの最年少？の三十八歳の奥さんは「体重そのものはあまり減らないんですが、体は締まってほっそりした感じは出ているようです。それに体が敏しょうになったようね」しかもおしゅうとさんとの仲もグーンと良くなったという思わぬ付録まで出てきた昨今だ。

準備体操、ランニング、ラリー、試合と一通りのコースを終えたころには、ジャンボ奥さんたちは汗びっしょり。「最初は足腰が痛くなったけど、今では大丈夫」と一段落したところでお茶とお菓子のおしゃべりで散会。とにかく、強制されてといったふん囲気は全くない。適当な運動とおしゃべりが加わってストレス発散にも大いに役立っているように思えた。

「老人ホームに入るような年代になっても続けたい」と意気軒高なジャンボ・ママたちだがただ一つの悩みは思うように会場が借りられないこと。会場さえ都合がつけば、もっと回数をふやしたいという真壁さんがクラブ員の声を代弁していた。

ジャンボ・クラブ

会員約30人、会場へ来たら、ママであることを忘れる、が唯一の規約。会費は会場借り賃として月百円。バドミントンは毎週水曜午前九時―正午に指定の体育館に各自集合。問い合せ先（電721・5562真壁方）

ひとロアドバイス

バドミントンはダブルスでやってもコートいっぱい動かねばならないし、シングルスならなおさら。家庭の主婦がやるには最もいいものではないか。お子さんが手が離れたからといってその分だけ何をすることもなくヒマを持てあましているケースがよくありますが、週一回でも体を動かすことによって老化を防止できるのではないでしょうか。

遠い人は会場まで三十分、それにバドミントンで汗を流し、家に帰って疲れたなどといったらアブハチとらず。ご主人やおしゅうとさんから、そんな小言を食わないためにも、テキパキと家事をやる。それが結果的には生活の中にも積極性が出てきて腰が軽くなり、運動不足解消、病気への抵抗力につながるのでしょう。（大田区体育指導協会理事　権田正一氏）



シャトルをねらったところへ打つのには自信があるし、カラ振りはまずしない。

ふとしたことから世界チャンピオンの中山紀子さんと知り合うようになり、裁判所の中庭のコートで職員ともども、時々、手合わせを願っている」

大阪・千里丘の万国博で、太陽の塔をつくった異色の芸術家岡本太郎さん。この写真は産経新聞（大阪）に載ったもの。題して〝私の健康法〟。記事の説明によれば、岡本さんは東京・青山のアトリエ内で、制作の合い間に、お弟子さんを向うにまわし、シャトルを追う。

『「もう一回」シャトルがラケットの真ん中に当るようになった「よし止めよう」あとはバドミントンのバの字もしない』

ひく手あまたの人気ぶり。

ところがバドミントンはじめ自転車、ラグビー、ハンドボール、重量挙げ、フェンシング、ソフトボール、ボート、庭球の9競技については希望ゼロ。

もちろん最終的には、どこかで開催されることに間違いはなく、県は十二月中に決める予定だが、本誌の読者にとってはちょっとショッキングなニュースだ。

（読売新聞）

お断わり——本誌では九月からユニバーサル通信社と特約して、全国の新聞、雑誌等に載ったバドミントンに関する記事を調べ、この欄で提供しています。これらの中には、教室、つどい、講習会等のお知らせも多いのですが、本誌が月刊のため、それをお知らせしても時間的に間に合いません。各地の愛読者はできるだけたんねんに、地元紙の「お知らせ」や「情報」欄に目を通すよう心がけて下さい。こうした行事は体育館、公民館、各種センターで、また県市町村や日教委の主催のことが多いので、時々、そちらの方面に問い合わせてみて下さい。

バドミントン利用者数は5位

一周年迎えた京都府立体育館

京都市の府立体育館が十月十日、体育の日で開館一周年を迎える。この間、第一、第二競技場、トレーニング場に足を運んだ使用者は延べ二十六万八千人にものぼる。

アマ・スポーツの利用状況を見ると、第一競技場はテニス六百二十七件、32％をトップに②バレーボール31％③卓球7・8％④バスケット7・5％⑤バドミントン6・2％がベスト5となっている。

毎週第一土曜の全館開放〝スポーツを楽しむ日〟には百円出せばなんでも出来る。身障者も楽しめる施設を持っているのも自慢の一つ。

この体育館は第一競技場ならバドミントン10面、第二競技場でも4面とれる。利用者は六カ月前から十日前まで（第一競技場、第二は三カ月から七日前まで）直接、体育館へ行って申し込むこと。

ショック、引き受け手なし

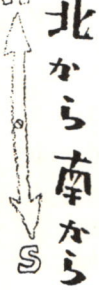
島根国体のバドミントン会場

島根県教育委員会は、昭和五七年開催の〝島根国体〟に備えて、十月から種目別会開催地と会場の配置について、具体的な検討を始めた。

体育館の定期的な行事としては青少年、初級婦人スポーツ教室、老人、心身障害者のつどいなどがある。

（夕刊京都、京都新聞）

いまのところ、開催希望があるのは県下59市町村のうち25市町村で、開催29競技に対し20競技。バスケットは8市町、卓球7市町村、剣道4市町が希望と、



◆第23回全国高校選手権（8月1～6日・新庄市）

〔男子団体〕

▽1回戦

県成田農 3－1 那覇商（沖縄）
土佐 3－0 名電工（愛知）
県勝山 3－1 県新宮（和歌山）
東奥義塾 3－0 逗子開成（神奈川）
九州学院 3－2 甲南（兵庫）
県吉原工 3－1 府市岡（大阪）
県新潟商 3－0 真岡工（栃木）
東山 3－0 秋田経大付（秋田）
市甲府商 3－0 近大付（広島）
県明善定 3－1 県松江商（島根）
県佐沼 3－0 県草津（滋賀）
鹿児島 3－0 霞ヶ浦（茨城）
県盛岡四 3－0 諏訪清陵（長野）
釧路商定 3－1 県松山南（愛媛）
下関商 3－1 県春日部（埼玉）

▽2回戦

正強 3－1 県成田農
県会津工 3－1 県倉敷青陵（岡山）
市桐生商 3－0 土佐
県山形工 3－2 県勝山
金沢市工 3－1 東奥義塾
九州学院 3－1 北海（北海道）
県吉原工 3－1 県境港工（鳥取）
県新潟商 3－2 県高松商（香川）
県高岡商 3－1 東山
県日和佐 3－1 市甲府商
日大鶴丘 3－1 県明善定
鹿児島 3－2 県伊勢工（三重）
市一条 3－0 県盛岡四
瓊浦 3－1 釧路商
日大山形 3－0 下関商

▽3回戦

正強 3－0 会津工
県山形工 3－2 市桐生商
金沢市工 3－0 九州学院
県新潟商 3－2 県吉原工
県高岡商 3－1 県日和佐
岐阜東 3－1 日大鶴丘
市一条 3－0 鹿児島
日大山形 3－0 瓊浦

▽準々決勝

正強 3－0 県山形工

中井○ 15－6 林
南田 15－7 西村
池田○ 3－15 秋葉
山下 15－7 三井
南田○ 15－8 三井
原○ 15－8 三井
林○ 15－9 松岡
佐藤 15－8 松岡
山下○ 15－7 星野
谷島 15－5 小池
金沢市工 3－1 県新潟商
原○ 15－2 佐藤
佐藤 15－12
木下 10－15 11－15 18－14 松岡○
岐阜東 3－2 県高岡商
古西 4－15 藤木○
小場 5－15 三ノ宮○
後藤 15－1 山下
角田○ 15－9 田形
古西 3－15 15－10 12－15 藤本○
後藤○ 15－2 15－5 山下
角田○ 15－3 18－16 三ノ宮
日大山形 3－0 市一条
工藤 15－5 茶谷
三浦○ 15－5 棟巳
大山○ 15－11 辰巳
吾妻○ 15－11 杉本
安田○ 15－10 12－15 11 茶谷
帯広大谷（北海道） 3－1 県甲府三（山梨）

〔女子団体〕

▽1回戦

昭和女（大分） 3－0 県隠岐（島根）
県真室川（山形） 3－0 県今治北（愛媛）
聖和吉田（宮城） 3－0 県渋川女（群馬）
県津幡（石川） 3－0 那覇商（沖縄）
伊那弥生丘（長野） 3－2 松蔭（兵庫）
富田女（岐阜） 3－1 県会津女（福島）
県大津（滋賀） 3－2 下関商（山口）
川越女（埼玉） 3－0 県都城商（宮崎）
平塚商（神奈川） 3－2 九州女学（熊本）
守山女商（愛知） 3－0 千厩（岩手）
県福井商（福井） 3－1 福山葦陽（広島）
鹿児島（鹿児島） 3－0 御坊商工（和歌山）
二階堂（東京） 3－1 県日和山（徳島）
県明善（福岡） 3－2 大谷谷（大阪）
県上市（富山） 3－0 県倉吉西（鳥取）
千葉学園（青森） 3－0 県日立二（茨城）

▽2回戦

四条畷学（大阪） 3－0 帯広大谷
県真室川 3－0 昭和女
聖和吉田 3－0 県吉原（静岡）
山陽女（岡山） 3－1 県津幡（石川）
我孫子二階堂（千葉） 3－0 伊那弥生丘（長野）
市長崎商（長崎） 3－0 富田女（岐阜）
敬愛学園（秋田） 3－0 県大津（滋賀）
県善通寺一（香川） 3－0 県川越女（埼玉）
市一条（奈良） 3－0 県平塚商（神奈川）
青陵（新潟） 3－0 守山女（愛知）
土佐女（高知） 3－0 県福井商（福井）
県真岡女（栃木） 3－1 鹿児島（鹿児島）
県新庄南（山形） 3－0 二階堂（和歌山）
札幌静修（北海道） 3－2 県明善（福岡）
県上市（富山） 3－0 県宇治山田（三重）
成安女（京都） 3－2 千葉学園（青森）

▽3回戦

四条畷学（大阪） 3－0 県真室川（山形）
山陽女（岡山） 3－0 聖和吉田（宮城）
我孫子二階堂 3－0 市長崎商（長崎）
敬愛学園（秋田） 3－1 県善通寺一（香川）
市一条（奈良） 3－0 青陵（新潟）
真岡女（栃木） 3－0 土佐女（高知）
県新庄南（山形） 3－0 札幌静修（北海道）
成安女（京都） 3－1 県上市（富山）

▽準々決勝

四条畷学 3－0 山陽女
諸橋 18－15 三田
高田 15－12 寺見
秋本 15－2 三宅
徳田 15－0 田辺
高田 11－5 三田
我孫子二階堂 3－1 敬愛学園
山田 15－4 佐藤
平野 15－4 沢木
斎藤 13－18 三浦○
瀬野 8－15 森沢
山田 11－2 佐藤
瀬野 6－11 三浦
市一条 3－1 真岡女
仲西 11－15 沼能
乾 15－12 日向野
原田 15－9 青木
狭川 6－15 増山
仲西 9－12 沼能○
乾 3－11 小川
県新庄南 3－1 成安女
今田 7－11 井上○
矢口 15－5 井上
今田 15－11 朝日
本間 15－6 長谷川
中鉢 15－7 北村
○小野 11－5 朝日

（注）以下前号に掲載ずみ

【男子シングルス】

▽3回戦 中井（正強）2－0田中（坂出工）、池田（都立第三）2－1畑中（新宮）、森（長崎東）2－0仲尾（府立港）
秋葉（山形工）2－1後藤（岐阜東）、栗原（桐生市商）2－0国分（明善）、宮崎（鴨沂）2－0藤木（高岡）
村上（札幌西）2－1寺田（会津工）、須藤（東奥義塾）2－0向井（伊勢工）、後藤（日大鶴丘）2－0三浦（日大山形）
栗（高松商）2－0松浦（吉原工）、佐藤（新潟商）2－0出石（境港工）、辻（添上）2－0大東（長崎南）
栗（高松商）2－0松浦（吉原工）、佐藤（新潟商）2－0出石（境港工）、辻（添上）2－0大東（長崎南）
原（金沢市工）2－0下山（弘前）、中山（九州学院）2－1梶田（慶応）、井上（市岡）2－0安田（日大山形）、角田（岐阜東）2－0石崎（真岡工）

▽4回戦

中井 15－2 池田（正強）
秋葉 15－8（都三）森
栗原（山形工） 15－3（長崎東）宮崎（桐生市商） 15－9 15－5（鴨沂）

須藤（東奥義塾） 15－12 村上
後藤（日大鶴丘） 15－5（札幌西） 15－13 15－8 栗
辻（添上） 15－10（高松商）
原（金沢市工） 15－7 佐藤（新潟商）
角田（岐阜東） 15－2（九州学） 15－9 中山
15－1 10－0 15 井上（市岡）

（注）以下、前号掲載ずみ

【男子ダブルス】

▽4回戦 秋葉・三井（山形工）2－0古西・小場（岐阜東）
栗・北谷（高松商）2－1森・山口（長崎東）
大山・吾妻（日大山形）2－0池田・山下（正強）、原・林（金沢市工）2－0栗原・千明（桐生市商）
渡辺・菅野（山形東）2－0石崎・柏谷（真岡工）、中山・木村（九州学院）2－0北村・高木（甲南）
藤木・三ノ宮（高岡商）2－0後藤・角田（岐阜東）、中井・南田（正強）2－0山下・谷島（金沢市工）

▽準々決勝

秋葉 15－7 栗
三井 15－10 北谷
原 15－10 大山
林 15－5 吾妻
渡辺 15－11 中山
菅野 15－11 木村

中井 10－15 藤木
南田 15－8 三ノ宮
15－11

（注）以下、前号掲載ずみ

【女子シングルス】

▽3回戦 秋本（四条畷学）2－0瀬野（我孫子二階堂）、矢口（新庄南）2－1山本（上市）
桜井（尼崎）2－0大場（二階堂）
緒方（昭和女）2－0池田（新潟青陵）、山内（善通寺一）2－0伊藤（九州女）、樋口（長崎商）2－0宮越（札幌静修）
井上（成安女）2－0梅田（富田女）、沼能（真岡女）2－0松田（黒石）、徳田（四条畷学）2－0桜井（昭和学）
本間（新庄南）2－0星田（新潟商）、石渡（平塚商）2－0佐藤（敬愛学）、長谷川（成安女）2－0青野（今治北）
弓削（熊本中央女）2－0石川（前橋東）、渡辺（平商）2－0日山（帯広大谷）、本田（千葉学）2－1山口（高松女）仲西（奈良一条）2－0今田（新庄南）

▽準々決勝

秋本 11－1 矢口（新庄南）
（四条畷学） 11－10
桜井（尼崎） 11－6 緒方（昭和女）
11－7 9－11 山内（善通寺一）
樋口（長崎商） 11－0

沼能（真岡女） 11－8 井上
11－4 11－9（成安女）
徳田（四条畷学） 11－5 本間
11－4（新庄南）
石渡（平塚商） 11－8 長谷川
12－10（成安女）
弓削（熊本中央女） 11－7 渡辺
11－5（平商）
本田（千葉学） 11－3 仲西
12－10（奈良一条）

（注）以下、前号掲載ずみ

【女子ダブルス】

▽4回戦 本間・中鉢（新庄南）2－0緒方・江田（昭和女）、諸橋・高田（四条畷学）2－0後藤・大友（聖和学）
長谷川・高井（三条東）2－0大井・西田（藤園女）、矢口・今田（新庄南）2－0沼尾・渡辺（今井）
小野・早川（新庄南）2－1山田・平野（我孫子二階堂）、三田・寺見（山陽女）2－0樋口・倉田（長崎商）
山内・植田（善通寺一）2－1堀田・清水（新庄南）、秋本・徳田（四条畷学）2－0佐藤・沢木（敬愛学）

▽準々決勝

諸橋 15－11 本間
高田 15－8 15－15 中鉢
矢口 15－3 長谷川
今田 15－3 高井
三田 10－15 小野
寺見 棄権 早川

秋本 15－4 山内
徳田 15－1 植田

（注）以下、前号掲載ずみ

◆第2回全国中学生大会（8月18日－20日・愛知県体育館）

◇男子

▽1回戦

岩手2（複1－0 単1－0）1鳥取
滋賀3（複1－0 単2－0）0岩手
東京3（複1－0 単2－0）0三重
福島3（複1－0 単2－0）0静岡
石川2（複1－1）1香川
新潟3（複1－0 単2－0）0栃木
熊本3（複1－0 単2－0）0愛知B
山形3（複1－0 単2－0）0京都
奈良3（複1－0 単2－0）0茨城
富山3（複1－0 単2－0）0山口
徳島3（複1－0 単2－0）0愛知A
兵庫2（複0－1 単2－0）1長崎
岡山3（複1－0 単2－0）0青森
大阪3（複1－0 単2－0）0北海道

▽2回戦

神奈川3（複1－0 単2－0）0高知
岐阜2（複1－0 単1－1）1宮城
福井3（複1－0 単2－0）0群馬
滋賀2（複1－0 単1－0）0東京
石川2（複1－0 単1－0）0福島
熊本2（複1－0 単1－0）0新潟
富山2（複1－0 単1－0）0山形
奈良2（複1－0 単1－0）0岡山
兵庫2（複1－0 単1－0）0徳島
大阪阪2（複1－0 単1－0）0神奈川
福井2（複1－0 単1－0）0岐阜

（注）以下、本文に掲載

◇女子

▽1回戦

福井3（複1－0 単2－0）0福島

▽2回戦

大阪2（複0－1 単2－0）1福井
兵庫3（複1－0 単2－0）0三重
神奈川3（複1－0 単2－0）0熊本

▽3回戦

北海道3（複1－0 単2－0）0茨城
富山2（複1－0 単1－1）1徳島
京都2（複0－1 単2－0）1岡山
愛知A2（複1－0 単1－1）1群馬
石川3（複1－1）1宮城
東京3（複1－0 単2－0）0岐阜
香川3（複1－0 単2－0）0岩手
栃木3（複1－0 単2－0）0長崎
奈良3（複1－0 単2－0）0静岡
新潟3（複1－0 単2－0）0鳥取
大阪2（複1－0 単1－1）1兵庫
高知2（複1－0 単1－0）0神奈川
滋賀2（複1－0 単1－0）0山形
高知3（複1－0 単2－0）0青森
山形3（複1－0 単2－0）0山口
滋賀3（複1－0 単2－0）0愛知B
栃木2（複0－1 単2－0）1香川
奈良2（複1－0 単1－0）0新潟
京都2（複1－0 単1－0）0愛知A
東京2（複1－0 単1－0）0石川

（注）以下、本文に掲載

愛知県

◆五大都市体育大会バドミントン競技（7月14日－16日・名古屋市名電工体育館）

◇男子リーグ戦

横浜5（単3－0 複2－0）0京都
横浜5（単3－0 複2－0）0神戸
大阪5（単3－0 複2－0）0京都
名古屋4（単3－0 複1－1）1神戸
大阪5（単3－0 複2－0）0名古屋
大阪5（単3－0 複2－0）0神戸
名古屋4（単2－1 複2－0）1京都
横浜4（単3－0 複1－1）1大阪
横浜5（単3－0 複2－0）0名古屋
横浜4（単2－1 複1－1）2神戸
名古屋5（単3－0 複2－0）0京都
横浜4（単2－1 複2－0）1神戸
大阪4（単2－1 複2－0）1神戸
横浜5（単3－0 複2－0）0京都
名古屋4（単3－0 複1－1）1大阪
神戸4（単3－0 複1－1）0京都
名古屋4（単2－1 複2－0）1神戸
横浜4（単3－0 複1－1）1大阪
大阪5（単3－0 複2－0）0京都
名古屋4（単3－0 複1－1）1横浜

（順位）①名古屋17点②横浜14点③大阪11点④神戸7点⑤京都1点（名古屋は5度目）

◆第17回東海実業団選手権大会（10月8日・刈谷市体育館）

〔男子団体〕

▽1回戦 富士フィルム富士宮（静岡）3－0豊田工機（愛知）、豊田自動織機（愛知）3－0加藤鉄工（岐阜）
名古屋市役所（愛知）3－0

（順位）①横浜19点②大阪16点③名古屋8点④京都4点⑤神戸3点（横浜は7連勝10度目）

◇女子リーグ戦

ユニチカ岡崎（愛知）、三菱自動車名古屋（愛知）3－0住友化工（愛知）

▽2回戦　富士フィルム富士宮3－2名古屋鉄道（愛知）、日本電装（愛知）3－0豊田自動織機

新日鉄名古屋（愛知）3－1名古屋市役所、トヨタ自動車工業（愛知）3－1三菱重工名古屋

▽準決勝

日本電装 3－2 富士フィルム富士宮
○杉山 15－12 川原崎
森川 15－9 西島
城 16－18 滝
竹田 6－15 井出○
○杉山 15－9 西島
15－10
城 13－15 井出○
15－9
○森川 15－7 滝
15－11
トヨタ自工 3－0 新日鉄名古屋

○牛島 15－12 奥野哲
松島信 15－7 奥野省
○松島保 15－9 山本
松井 15－2 金谷
○牛島 15－4
15－6 奥野哲

▽3位決定

新日鉄名古屋（棄権）富士フィルム

▽決勝

トヨタ自工 3－0 日本電装
○牛島 15－10 杉山
松島信 15－2 森川
○松島保 15－7 角
松井 15－1 竹田
○松島信 15－8
15－4 13－15 城

（二年ぶり14回目の優勝）

【女子団体】

▽1回戦　新日鉄名古屋（愛知）2－1十六銀行（岐阜）

▽2回戦　トヨタ自動車工業（愛知）2－0新日鉄名古屋、本州製紙富士B（静岡）2－0日本電装A（愛知）

本州製紙富士A（静岡）2－0名古屋鉄道（愛知）、豊田自動織機（愛知）2－0日本電装B（愛知）

▽準決勝

トヨタ自工2－0本州製紙B
○橋本 15－2 細小路
池田 15－1 加藤
○村田 6－11
11－7 加藤
11－2
豊田織機 2－0 本州製紙A
○大橋 15－4 鳴
工藤 15－3 石川
○富居 15－4
15－5 鳴

▽3位決定

本州製紙A2－0B本州製紙

▽決勝

トヨタ自工 2－1 豊田織機
○橋本 15－7
池田 5－15 大橋
15－9 工藤
池田 10－12
4－11 富居○
○橋本 11－3
4－11
11－9 工藤

（3連勝14回目の優勝）

広島県

◆47年度一般選手権大会（9月24日・因島日立造船体育館）

◇男子シングルス準々決勝

矢野（日立）2－0金広（三菱）、永井（広大）2－1青柳（友）、多田（友）2－1辺見（広大）、占部（友）2－0松本（広大）

▽準決勝　矢野2－1永井、多田2－1占部

▽決勝　矢野2－1多田

◇男子ダブルス　準決勝　矢野・占部（日立）2－0辺見・永井（広大）、多田・青柳（友）2－0松本・福永（広大）

▽決勝　多田・青柳（不明）

矢部・占部

◇女子シングルス　準決勝

宮地（日立）2－0沢田（日立）、三森（日立）2－0正原（日立）

▽決勝　宮地2－0三森

◇女子ダブルス　準決勝　宮地・三森（日立）2－0川原・角田（尾道）、正原・沢田（日立）2－0土屋・林（尾道）

▽決勝　正原・沢田（不明）

宮地・三森

◆第4回理事長杯大会（7月23日・県立体育館）

◇男子シングルス　準々決勝

杉原（友）2－0矢野（日立）、山岡（友）2－1福永（広大）、永井（広大）2－1大久保（広大）、伊藤（NKK）不戦勝

▽準決勝　杉原（不戦勝）、伊藤2－1永井

▽決勝　杉原（不戦勝）

◇男子ダブルス　準々決勝

菊地・平川（府中）2－0咲賀・勝岡（広島）、青柳・柏木（友）2－1福永・杉本（広大）、矢野・占部（日立）2－0永井・増本（広大）、山岡・杉原（友）2－0大下・平松（府中）

▽準決勝　菊地・平川2－1青柳・柏木、矢野・占部2－1山岡・杉原

▽決勝　矢野・占部2－0菊地・平川

◇女子シングルス　準々決勝

宮地（日立）2－0川上（広大）、小林（友）2－0藤井（広大）、松本（広大）2－1三森（日立）、広田（広大）2－0石原（友）

▽準決勝　宮地2－0小林、広田2－0松本

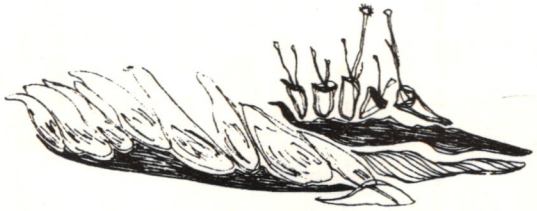
▽決勝　広田2－0宮地

◇女子ダブルス　準々決勝

石原・小林（友）2－1松吉・沖野（広大）、大坪・吉永（広大）2－0日野・渡辺（女学）、広田・川上（広大）2－0浜崎・日野出（女学）、宮地・三森（日立）2－0杉本・藤井（広大）

▽準決勝　石原・小林2－0大坪・吉永、広田・川上2－0宮地・三森

▽決勝　石原・小林2－0広田・川上



今月の言葉

○日の当たる道を歩け

カゲの男だとか、縁の下の力持ちなどという言葉は一種のさわやかなひびきを持っている。だが実は、それはあきらめのこもった自己満足のさわやかさでしかない。人間なら、日の当たるところで、人々の注視する中で堂々とやってこそ、やりがいがあり生きがいがある。そしてそれが成長につながる。

○根性では勝てない

根性は体力、技術が相手と同じレベルになったとき、はじめてウェートを持ってくる。それがそろっていないときに、根性をいっても仕方がない。

○常に新しい武器を

人間にはいつも創造していく姿勢が大切だ。創造のないところに進歩はない。日本のコンビネーション・バレーは、世界にないものをつくり出そうとする努力のあらわれなのだ。

○敵をつくれ味方をつくれ

自分でライバルをつくり出していくことが、それに勝とうとする向上心を生む。と同時に自分一人の力の限界を越えるために、味方をつくって地固めをすることが大切だ。敵の中の〝獅子身中の虫〟を味方にしたらプラスは計り知れない。

○自分で逆境をつくれ

順境にあっては、何ものかに反発して前進する意欲は稀薄だ。逆境をはね返そうとする意欲が進歩につながる。順境にあっても逆境をつくり出せる人間でなくてはならない。

○大ブロシキをひろげろ

大ブロシキをひろげろ。そうすれば、ひろげた大ブロシキを実現しなければ恥だという気持ちが生まれる。

○すごいだけではダメ

すごいというだけでは底が知れている。世界を相手に堂々とやるためには、だれが見てもものすごい、というのでなくては通用しない。

○死んでもいい気持ちで

中途半パなやり方はいけない。男なら目的のためには死んでもいい気持ちになれ。死ぬ気でやったということが、たとえ目的達成という具体的成果につながらなくても、その男の人生に大きな価値を持つ。

○常識のワクをはずせ

常識のワクをはずして考えること。私はウドの大木だとか、総身に知恵がまわりかねるとかいわれる大男をかき集めて鍛えるという、常識外の選手育成を行なったが、これは今では常識になった。

○天の時、地の利、人の和

地の利、人の和は人力でつくり出せる。そして人力では呼び込むことが不可能とされる〝天の時〟も、ある程度は呼び込める。それは努力しだいだ。

○しあわせと感じること

私はいいコーチ、いい選手にめぐまれた。しかも、自分たちのためにやったことが、日本中の人々に喜んでもらえた。私はしあわせな男だ。

（東京中日スポーツから）

負けてたまるか
＝松平語録（全日本男子バレー監督）から

日中交流と大衆活動を特集
〈次号予告〉

次号では、今月号で間に合わなかった〝日中交流〟問題をまず特集します。日中の交流はさきごろ来日した訪日バレーボール代表団の首脳部と日本協会の間で話し合いが持たれ、日本側は正式会談で協定を結びたいという態度を明らかにしたことによって、いまや時間の問題となりました。

次号ではこの経過を説明するとともに、中国の現状や、ネパール国際バドミントンで中国と対戦した日本チームの話、関係者の情報などを総合してお届けします。

もう一つの特集は〝体育の日〟を中心にした、全国バドミントン界の活動状況。やりたくともコートがない、という声も多く聞きますが、全国各地に最近、体育館など施設の建設もかなり盛んになってきました。これらの現状もあわせてお伝えします。ご期待下さい。写真グラフはミュンヘン便りです。

編集室

○…ユ杯のあとしまつが終ったらミュンヘン、そしてト杯、日中交流への具体的な動きなど息つくヒマもないほど、忙がしい毎日が続きます。何度も繰り返すように、バドミントンが、いわゆるメージャー・スポーツと定着するには、まだまだ時間がかかりますが、この一年で、国内ではかなり地歩を固め関心をひいてきたようです。

○…この欄の上の「今月の言葉」は、五輪の金メダルで、あっという間に〝時の人〟となったバレーボールの松平康隆監督の語録を紹介してみました。一つのことをなしとげる人には、それなりの人間の持つえらさ、努力があるもの。かみしめてみたいと思います。

【バドミントン界】第37号
昭和47年9月25日　印刷
昭和47年10月1日　発行
編集兼発行人　川端昇市
発行所　東京都渋谷区神南一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

©無断転載を禁ず

《第2回国際女子バドミントン競技大会》

全日本対ヨーロッパ選抜

●日程　第1戦＝1月28日(日)　東京・代々木第2体育館
第2戦＝1月29日(月)　横浜・横浜文化体育館
（テレビ実況中継：東京12チャンネルp. m. 7:30～9:00
提供：日本航空／ヨネヤマラケット）
第3戦＝2月3日(土)　岐阜・東海女子短大体育館
第4戦＝2月4日(日)　宇都宮・栃木県体育館
第5戦＝2月6日(火)　東京・代々木第2体育館

●出場選手

《ヨーロッパ選抜》		《全日本》
ペルニール・カガード	（デンマーク）	中山紀子
アン・フリント	（デンマーク）	湯木博江
エバ・ツェドベリー	（スエーデン）	竹中悦子
M·A·ギルクス	（イギリス）	相沢マチ子
マリリューズ・ジスマン	（西ドイツ）	他
バンビュー・セコム	（オランダ）	

●主催　日本バドミントン協会
●後援　東京12チャンネル
読売新聞社
報知新聞社

ヨネヤマラケット

姉に続く〝三冠王〟

―全国高校選手権から―



女子団体戦で立て役者となり個人戦の
単複も制した秋本幸子（四条畷学）



奈良添上・辻



山形工・秋葉，三井組

第23回全国高校バドミントン選手権大会（山形県新庄市）



店で暖い接待



真岡女・沼能

第二十三回全国高校バドミントン選手権大会は、全国高校総体の一環として、八月一日から六日まで、山形県新庄市で開かれた。

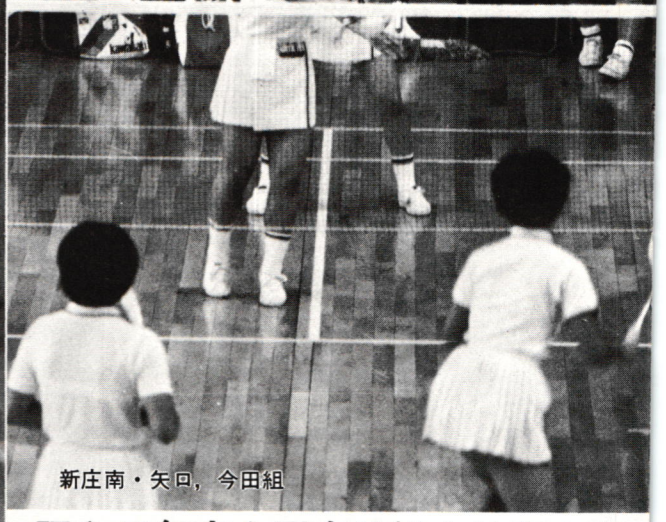
新庄は全国でも有数のバドミントン都市、スソ野が広いだけでなく、頂点もなかなかに高いそれだけに、準備、運営にはほとんどクレームもつかず、参加選手団は、暑さの折りながら気分よくプレーできたという。

そのことは前号既報のとおりだが、このグラフで見ても、婦人会のきれいどころ（？）が総



四条畷学・徳田





新庄南・矢口，今田組

昭和47年度全国高校総合体育大会



体育館の外で

出で湯茶の接待に当たるなど、人情もこまやかだった。

試合の方は、これまた〝本命〟とみられた学校が実力どおりに優勝、男子は奈良・正強、女子は四条畷学園が、前年に引き続いての二連勝。しかもことしはそろって団体・個人単・複の全タイトルを独占するという、史上まれにみる偉業を立てた。

これまでの歴史をふりかえってみるとひとつ気がつくことがある。それは上位校を出す地域が、限定されつつあることだ。

試みに団体戦各年度3位までのチームに1位10点、2位7点、3位5点を与え、都道府県別に集計すると、次のようになる。

▽男子①富山86②石川83③山形69④新潟59⑤神奈川53⑥東京37⑥奈良37⑧島根29⑨北海道27⑩宮城17

▽女子①香川89②大阪64③秋田61④新潟47⑤北海道42⑥栃木35⑦京都33⑦岡山33⑨山形31⑩宮城27

だが、北海道、東京、神奈川などの栄光は完全に過去のものであり、香川、島根、秋田なども、この数年、上位に顔を出すことはほとんどなくなった。上位の常連は北陸と関西だ。

〝強さ〟が地域的に片寄ることはよくない。全国の諸君、がんばってくれたまえ。

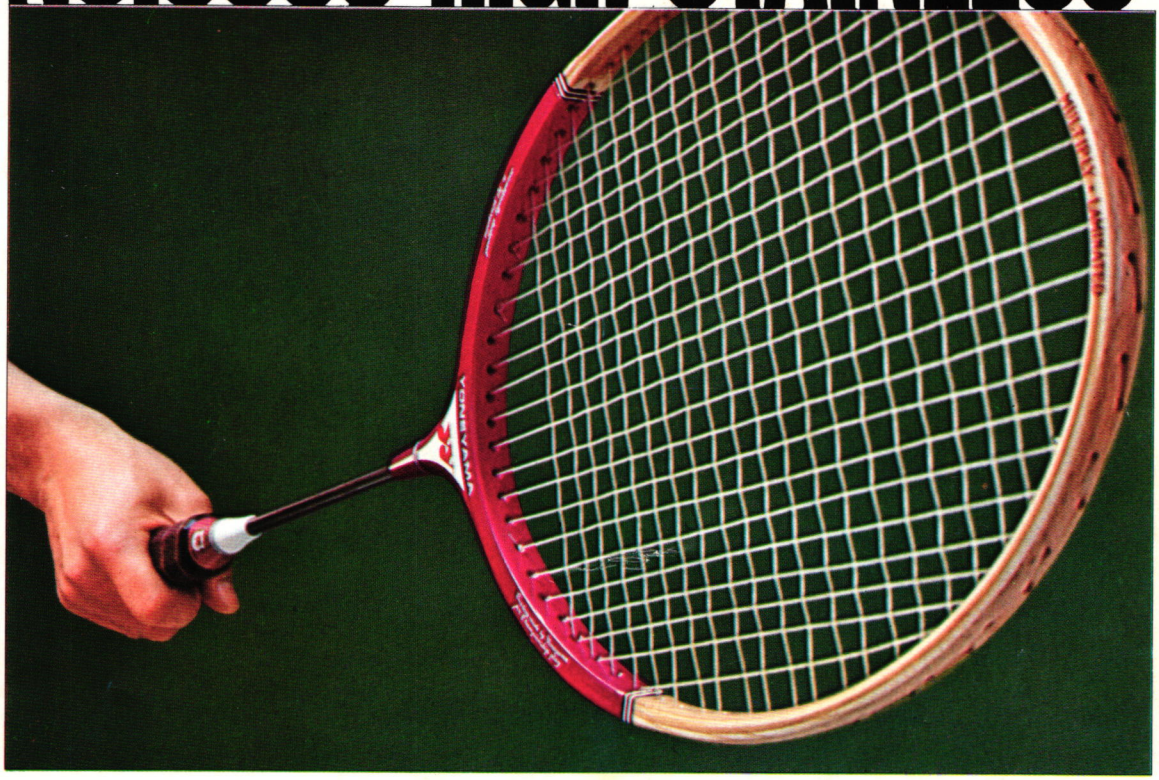


今年のインタハイは男子でも中井基夫（正強）
という三冠王を生んだ。進学先はどこ？


SunBatta
SUNBATTA
SUNBATTA
KING
SUNBATTA
It's Excellent in the Court.
SUNBATTA KING, KING MATE
SunBatta
TOKYO
サンバタ
MOROE SEISAKUSHO CO.,LTD.
46-8, Sasazuka 2-Chome, Shibuya-ku, Tokyo, Japan
Phone : Tokyo (03)377—4401

月刊「バドミントン界」第37号
昭和四十七年十月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日 第三種郵便物認可
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百三十円

No.9000 HIGH STAINLESS



未知のちからを隠しもつ

ステンレスのシャフト

しぶとい弾力。まったく鋭い切れ味。瞬間に炸裂する攻撃力。いままでのバドミントンラケットでは、とても出せなかった鮮烈なパワーです。シャフトにステンレスの特性を生かしきってありますから、難度の高いテクニックも思いのまま。これぞ、バドミントンを科学するヨネヤマの、新しい自信作です。その名をハイステンレス。その真価は、世界に点在する一流プレイヤーたちに問いたい。

No.9000ハイステンレス／￥3,800（フレームのみ）

ヨネヤマラケット